

平成 26 年度 社会福祉法人 鈴鹿聖十字会 事業報告書

I. はじめに

社会福祉法人鈴鹿聖十字会は、福祉や医療サービスを必要とする方々に寄り添い、その声に耳を傾け、人間性、尊厳、さらにはその方の生きる権利を最大限に尊重する医療・保健・福祉サービスを総合的に提供できる体制を整備し、地域住民の安心を生み出す福祉医療の拠点となることを目指し、平成 26 年度は以下のことを実施した。

II. 平成 26 年度実施事業

1. 社会福祉事業

(1) 第 1 種社会福祉事業

- ・特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家の経営
- ・特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家の経営
- ・障害者支援施設 菰野聖十字の家の経営
- ・ケアハウス 白百合ハイツの経営
- ・聖十字四日市老人福祉施設の経営

(2) 第 2 種社会福祉事業

- ・認定こども園 聖マリアこども園の経営
- ・介護老人保健施設 聖十字ハイツの経営
- ・鈴鹿聖十字の家 老人居宅介護等事業の実施
- ・鈴鹿聖十字の家・菰野聖十字の家 老人短期入所事業の実施
- ・菰野聖十字の家 障害福祉サービス短期入所事業の実施
- ・老人デイサービスセンター聖十字保々在宅介護サービスセンターの経営
- ・老人介護支援センター 聖十字保々在宅介護サービスセンターの経営

2. 公益事業

- ・居宅介護支援事業
鈴鹿聖十字の家・菰野聖十字の家・聖十字保々在宅介護サービスセンター
- ・菰野聖十字の家診療所の経営
- ・三重聖十字病院の経営

III. 事業の主な動き

1. 法人全体の主な動き

- (1) さらなる利用者満足度向上のための教育・研修および内部監査の実施
法人全体で実施する研修、そしてその具体的な展開のための各施設での教育訓

練を積極的に実施し、社会福祉法人職員として、利用者の人権を守り、地域でのより良い生活を実現できる知識・技術の獲得を目指した。また内部監査を実施し、各施設間・職員間において技術の研鑽や相互牽制が可能となるシステムの構築を進めていった。

(2) 法人内マネジメントシステムを活用した客観的根拠に基づく事業経営の実施

- ① 施設整備の充実
- ② 教育・研修の充実と職員のレベルアップ
- ③ リスク管理の強化
- ④ 財務・経理管理の改善
- ⑤ 給食センター・洗濯センター運営体制の充実
- ⑥ 内部監査の充実
- ⑦ 広報活動（ホームページなど）の充実

上記の項目について、法人および各施設で具体的な取り組みを進めた。26年度は新たに、四日市市に地域密着型個室ユニット型特養「聖十字四日市老人福祉施設」（特養 29 床・短期入所生活介護 10 床）を開設し、地域の福祉ニーズにより貢献できる体制を整えた。

(3) 職員の資質・意欲向上のための「キャリアパス制度」の充実

職員が将来展望を持って働き続けることができるよう、人事・給与体系やキャリア形成のための明確な人事考課体制や教育研修体制を確立し、職員一人ひとりの明確な評価・目標管理を組織として継続的に実施し、能力、資格、経験等に応じた効果的なキャリアアップ体制を整備するとともに、制度改正に伴う介護職員の処遇改善の具体的な方法を検討し、27年度より介護職員の給与を改善していく体制を整えた。

(4) 経営基盤の強化

利用者が真に必要とする安心・安全なサービス展開に務めた。そのために、理事長、各施設長による「施設長会議」を毎月開催し、各施設の課題や利用者の満足度向上、職員の教育方法、さらには稼働率アップのための具体的方法について、法人内施設が合同でリーダー研修会を開催し、利用者に対する具体的なサービスの資質向上をはかった。

2. 会議

当法人の適切な運営のために次の会議を開催した。

- | | |
|----------|----------------|
| (1) 理事会 | 年 2 回（5 月、3 月） |
| (2) 評議員会 | 年 2 回（5 月、3 月） |

3. 教育・研究

- (1) 施設長等を対象に、マネジメント能力の向上を図るための研修会議を毎月開催した。
- (2) 利用者に真に安心していただき安全な生活を送っていただくことを目的として、「法人リーダー研究会」を開催した。(11月開催)
- (3) さらなる職員の資質向上をめざし、各施設別に専門研修に積極的に取り組んだ。

4. 監査

定款・諸規程等に従い以下のとおり監査を実施した。

- (1) 監事監査(5月)、税理士監査(5月)
- (2) ISO第6回サーベイランス(9月：三重聖十字病院)

5. 広報

機関紙およびインターネット等を活用して、情報公開を行うとともに、福祉・医療に関する理解と参加を促進する広報活動を行った。(菰野聖十字の家『そよ風』・鈴鹿聖十字の家『すばる』・聖十字ハイツ『もみの木』の発行、各施設ホームページなど)

6. 地域交流・ボランティアの受け入れ

利用者に安心、安定した生活を送っていただくため、地域の方々やボランティアの方とともに支え合いの仕組みを構築することができるよう、以下のことを実施した。

- | | |
|-------------------|----------|
| ① 5月家族交流会 | (5月3日) |
| ② 盆踊り | (7月20日) |
| ③ メリノール女学院奉仕活動 | (10月8日) |
| ④ こども園・施設・地域合同運動会 | (10月12日) |
| ⑤ 茶会 | (2月1日) |
| ⑥ ホーム喫茶 | (毎月1回) |

IV. 新規事業の展開

1. 四日市市に地域密着型特養「聖十字四日市老人福祉施設」(個室ユニット型特養29床・短期入所生活介護10床)を平成26年11月、新たに開設した。
2. 特別養護老人ホーム鈴鹿聖十字の家の個室・ユニット化に伴う改築の実施に向けて、検討、諸準備を行った。

平成 26 年度 特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家 事業報告書

I. 事業内容

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 定員 60 名
居宅介護支援事業・介護予防支援事業

II. 事業内容全般

利用者の安全と安心の実現のために、「職員がよかれと思うことではなく、利用者の方が望まれるサービスを積極的に提供する」ことを目標に、特に個別サービスの向上に取り組み満足度の向上を図った。

III. 具体的な事業実施内容

1. 稼働率の向上

(計画内容)

運営の安定化を図るため、稼働率目標を 98.0%とし、ベッド管理を行う。

(実施状況)

ベッド稼働率状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入居	94.2	95.1	98.8	99.4	99.0	98.0	97.5	96.2	93.9	93.2	95.3	99.0
総合	95.5	95.1	98.6	98.9	99.5	98.2	97.5	97.1	96.4	95.3	97.6	99.2

特養 60 床の通年稼働率は 96.6%であったが、短期入所との総合で 97.4%となった。施設で終末を迎えたいというニーズに対応し、日常の取り組みのなかで事故や感染症、脱水症、誤嚥などの予防に努めた。

2. 満足度向上に向けて

(計画内容)

利用者満足度の向上を図るため、職員一人ひとりが利用者一人ひとりの状況を把握し、それに沿ったサービスを提供することで、利用者満足度の向上を図る。利用者満足度アンケートの結果を 4.1 点（5 点満点中）以上とする。

(実施状況)

9 月にアンケート調査を実施した。ご家族様に対するアンケート項目全部の平均値は 4.26 となり、目標値を超える結果となったが、自由記述に「老朽化は仕方がないが、ベッドなどの施設備品はなんとかありませんか」とあるように施設内環境（居室・トイレ・浴室等）に関する項目はほとんど 3 点台という低さが目立った。

3. 事故の防止

(計画内容)

利用者の皆様に安全に生活していただくため、事故発生件数を月10件以下にし、ヒヤリハット報告件数を前年度より1割増加させる。

(実施状況)

事故件数は年間158件で月平均10件を上回ってしまった。また前年に比べ49件の増加となってしまった。一方、ヒヤリハット報告件数は年間25件で、前年度比34件減少となり、ともに目標値を達成することができなかった。今後は、事故・ヒヤリハット報告の改善対応策をよく検討し、それを職員間で共有して注意していくことで、事故の減少に努めていきたい。

4. サービス向上のため、職員の意欲と資質の向上に向けた取り組み

(計画内容)

「利用者に安心して生活していただくために、職員はどのように行動すべきか」をテーマにし、職員が自分で判断し、行動できる力を付けられる研修を実施する。

(実施状況)

コミュニケーション能力を高め、利用者のニーズを意識し、利用者に安心していただけるために行動できる能力を身に付ける内容の研修を、介護職員全員を対象に行う計画であったが、対応の基本から見直す必要があると判断し「初心に帰り、職員としての基本姿勢を見直す」という内容の施設内研修を実施した。

5. 施設内環境の適切な管理

(計画内容)

利用者に安全に安心して生活していただくため、施設内環境の管理を徹底的に行う。

(実施状況)

温度・湿度の値が基準値から外れることのないよう、毎日監視を実施した。

※基準値：夏季温度 27.5℃～28.5℃ 湿度 40%～60%

冬期温度 20.0℃（夜間 18.0℃）～23.0℃ 湿度 35%～50%

温度・湿度に変動がみられるときは、換気や冷暖房の調整を行って、安定した環境を維持する。館内の温度・湿度を毎日測定し、季節に合わせて窓の開閉による換気、冷暖房の調節を細かく行った。また、冬期は加湿器を使用し、湿度を保つように心がけた。

館内温度は夏季 28.5℃を上限に、冬期 20.0℃を下限とし、湿度は 40%以上を目安とするよう調整した。

6. 給食サービスの質向上

(計画内容)

安全で質の高い食事が常に提供できる体制を作る。

(実施状況)

仕入れ内容や調理方法を工夫し、嚙下障害のある方にも安全に召し上がっていただきやすい食事形態を提供するとともに、配膳してから召し上がっていただくまでに冷めることのないよう介助させていただき直前に温冷配膳車から取り出すことを徹底した。

7. 居宅介護支援事業の拡大

(計画内容)

居宅介護支援の利用者数を増加させる。請求人数は月平均 30 名以上、要介護認定訪問調査件数を 15 件以上とする。

(実施状況)

居宅介護支援事業利用者は予防支援も含め月平均 27.3 名、要介護認定訪問調査件数は月平均 12.7 件であり、どちらも目標をクリアすることができなかった。

8. 経費の節減

(計画内容)

運営の安定化を図るため、無駄な経費の節減を行う。

(実施状況)

毎月電気・ガス・ガソリン・消耗品の使用状況、金額を表にしてミーティングで点検した。また、施設内で電気や燃料等の無駄な使用がないように点検を行い、必要に応じて是正を行った。

IV. 地域社会との連携

1. ボランティアとの連携

団体及び個人の皆様方に、クラブ活動、施設内行事、外出行事および施設敷地内の草刈り、庭木剪定等のご協力をいただいた。

(1) ご協力いただいた団体・個人

みえ琴友会様・鈴鹿教会様・木田町老人会様・石薬師高校ボランティア部様
第2石薬師保育園様・千代崎中学校様・川北様・ロマンの会様

2. 地域交流

(1) 大正琴の会（毎月 1 回）：みえ琴友会様

(2) 鈴鹿教会（毎月 1 回）

(3) 春の家族会（5 月 3 日）：川北様、石薬師高校様、ロマンの会様

(4) 鈴鹿市ワークキャンプ《社会福祉協議会主催》（7 月 30 日～31 日）

(5) 鈴鹿市理容組合様による散髪（9 月 8 日）

(6) 木田町老人会園内清掃作業（9 月 11 日）

(7) 秋の家族会（9月15日）：川北様、石薬師高校様、よさこいチーム舞様

(8) 千代崎中学校来訪（1月8日）

(9) 入居者と保育園児の交流会（3月5日） 第二石薬師保育園

(10) 実習及び福祉体験受入れ

鈴鹿医療科学大学、鈴鹿オフィスワーク医療福祉専門学校、石薬師高校、
たちばな学園、三重県社会福祉協議会、専門学校ユマニテク医療福祉大学、
神戸中学校

V. 資料

資料1：特養入居者の状況

① 月別入居者数 (平成26年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月初人数	60	60	58	59	60	59	57	60	58	57	56	59	703
入居	2	2	2	1	2	3	3	3	4	1	3	1	27
退居	死亡	1	4	1	0	3	5	0	4	5	1	0	24
	入院	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4
	他施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

② 年齢別男女入居者数 平成27年3月31日現在

	64歳 以下	65歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳～ 100歳	合計
男性	1	2	5	3	1	12
女性	1	2	4	24	17	48
合計	2	4	9	27	18	60

③ 要介護度別入居者数 平成27年3月31日現在

	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計
男性	0	2	4	4	2	12
女性	2	2	13	16	15	48
合計	2	4	17	20	17	60

④ 入居期間の状況

平成27年3月31日現在

	1年未満	1年～	3年～	5年～	8年～	合計	平均期間
男性	7	5	0	0	0	12	1年1ヶ月
女性	15	15	9	5	4	48	2年9ヶ月
合計	22	20	9	5	4	60	2年5ヶ月

⑤ 保険者別入居者数

平成27年3月31日現在

保険者名	入居者数		合計
	男性	女性	
鈴鹿亀山地区広域連合	11	40	51
津市	0	3	3
四日市市	1	3	4
いなべ市	0	1	1
日野町（滋賀県）	0	1	1
合計	12	48	60

資料2：行事開催状況

- 4月 4日 お花見
- 5月18日 家族会（若葉の会）
- 7月 7日 七夕昼食会
- 7月31日 かき氷作り
- 8月20日 納涼会
- 9月21日 家族会（実りの会）
- 9月22日 ショッピング（鈴鹿ハンター）
- 10月14日 運動会
- 10月22日 鈴鹿地区老施協交流会
- 10月25日 ふれあい広場
- 12月15日 忘年会
- 12月24日 クリスマス会
- 12月28日 餅つき
- 1月12日 新年会
- 2月 3日 節分豆まき
- 3月 3日 ひな祭り
- 毎月1回 昼食バイキングまたは季節の行事食・お誕生会・喫茶

資料3：居宅介護支援事業の状況

居宅介護支援事業の利用者数

(平成26年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	7	6	6	6	7	8	8	7	8	9	9	9	90
女	16	15	15	15	16	15	15	16	17	16	16	16	188
計	23	21	21	21	23	23	23	23	25	25	25	25	278

地域包括支援センターからの委託による要支援者の利用者数

(平成26年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
男	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8
女	3	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	42
計	4	5	5	5	5	5	5	4	3	3	3	3	50

資料4：職員の専門性向上のための研修受講状況

1. 施設外研修

- (1) 5月15日 職員1名
鈴鹿地区居宅介護事業所・介護支援専門員連絡協議会 講演
内容：「住み慣れた家で最後まで」(鈴鹿市)
- (2) 6月13日 職員1名
鈴鹿西部地域包括支援センター研修会 (鈴鹿市)
内容：「実地指導のための準備と対策方法」(鈴鹿市)
- (3) 7月2日 職員1名
鈴鹿地区居宅介護事業所・介護支援専門員連絡協議会 第1回研修会
内容：「鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステムの現状と鈴鹿・亀山両市の取り組みについて」(鈴鹿市)
「医療連携のあり方とツールの活用方法」
- (4) 7月3日 職員1名
三重県 認定調査員現任者研修会 (四日市市)
内容：「三重県介護保険審査会で認容となった事例について」
「認定調査の実施方法、特記事項の適切な書き方」
- (5) 7月24日 職員2名
東海北陸ブロック研究大会
内容：「地域包括ケア推進と老人福祉施設の実践」
- (6) 7月28日 職員1名
介護労働安定センター 短期専門コース (津市)
内容：「介護のための医学の基礎」
- (7) 7月29日、8月19日、9月9日、10月21日 職員1名
鈴鹿地区居宅介護事業所・介護支援専門員連絡協議会 第2回研修会

- 内容「対人援助技術の基礎とケアマネジメントについて」(鈴鹿市)
- (8) 8月27日 職員1名
鈴鹿地区老人福祉施設協会 施設職員研修会(鈴鹿市)
内容:「老人施設における看取りについて」
- (9) 9月11日 職員1名
鈴鹿亀山地区広域連合 要介護認定調査員資質向上研修会(鈴鹿市)
内容:「要介護認定の現状について」
「認定調査の留意点について」
「認定審査会について」
- (10) 10月9日 職員1名
三重県 改定後の介護保険講演会(津市)
内容:「介護保険の改定と介護サービス事業所の対応」
- (11) 10月16日 職員1名
県老施協 栄養士・調理職員研修会(津市)
内容:「美味しく安心安全な食事の提供とは」
- (12) 11月5日 職員1名
鈴鹿市消防 一日消防訓練(鈴鹿市)
内容:「消防訓練」
- (13) 11月6日 職員1名
鈴鹿老施協 県外研修(大阪市)
内容:「介護付有料老人ホーム見学」
- (14) 11月17日 職員1名
鈴鹿地区老人福祉施設協会 特別研修 人権問題研修会(鈴鹿市)
内容:「高齢者の人権」
- (15) 11月25日 職員2名
水道水管理セミナー(津市)
内容:「非常時における水質試験と給水栓に関する水質苦情事例」
「水道水質基準等の動向と水質検査妥当性評価ガイドラインの基礎」
- (16) 12月5日 職員1名
鈴鹿食品衛生協会 講習会(鈴鹿市)
内容:「ノロウイルス食中毒予防」
- (17) 1月6日 職員1名
三重県 給食施設管理者研修会(津市)
内容:「日本人の食事摂取基準の活用」
- (18) 2月10日 職員1名
鈴鹿地区老施協 施設職員研修会(鈴鹿市)
内容:「外国籍の方との協働について」

- (19) 2月19日 職員1名
県社協 離職者等就労支援事業スキルアップセミナー（津市）
内容：「介護職のための腰痛予防」
- (20) 2月23日 職員1名
県老施協 制度改正・介護報酬改定研修会（津市）
内容：「制度改正と次期報酬改定について」
- (21) 3月5日 職員1名
三重県 給食従事者研修会（鈴鹿市）
内容：「災害に備えた給食施設の体制整備について」
- (22) 3月5日 職員1名
障害者雇用納付金制度事務説明会（鈴鹿市）
内容：「納付金制度の詳細 他」
- (23) 3月10日 職員1名
県老施協 トップセミナー（津市）
内容：「社会福祉法人は逆風にいかに立ち向かうべきか」

2. 施設内研修（各部署に資料配布）

- (1) 8月26日 職員 38名
内容：「認知症の方に対する理解」
- (2) 10月1日 職員 37名
内容：「身体拘束の廃止について」
- (3) 11月7日 職員 37名
内容：「高齢者虐待」

平成26年度
特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家
短期入所生活介護
事業報告書

I. 事業内容

短期入所生活介護 2床（併設型短期入所生活介護）

II. 事業内容全般

居宅において生活されている要介護または要支援状態の利用者に対し、可能な限り居宅においてその有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事等の介護やその他の日常生活上のお世話や機能訓練を行い、利用者の心身の維持ならびにご家族の身体的および精神的負担の軽減を図るよう取り組んだ。

III. 具体的な事業実施内容

1. 稼働率の向上

（計画内容）

運営の安定化を図るため、稼働率目標を特養と合わせ 97.5%とし、ベッド管理を行う。

（実施状況）

緊急ケースへの積極的な対応と近隣の事業所へのPR活動や情報提供などを実施しながら安定した稼働率を目指した。短期単独で見ると、空床利用を含めて 112.9%であったが、通常のショートベッドが2床しかないため、特養の入院に対する空床を埋める利用者の確保が難しく、入居との年間総合稼働率は 97.4%となり目標を下回ってしまった。

2. 事故の防止

（計画内容）

事故発生件数を前年度以下にし、ヒヤリハット報告件数を前年度より 1割増加させる。

（実施状況）

事故件数 1件で前年度比 15件減少とほとんど事故なく運営できた。ヒヤリハット報告は前年度 10件より 4件へと 60%減少となった。次年度も同様に安心を提供できるよう細かな内容であっても事故報告書、ヒヤリハット報告書を記録し、職員間で周知することで、事故の減少に取り組んでいく。

3. 苦情について

(計画内容)

利用者・家族からの苦情に関して丁寧に対応し、苦情をとおして施設サービスの改善を図る。

(実施状況)

担当の介護支援専門員からの苦情が1件あった。内容は右手首の痣と脛の皮膚が擦れて薄皮がめくれているという内容だった。事故報告がなかったことから気付けなかったことを丁寧に謝罪し、今後気をつけて対応させていただくことや利用初日と最終日にはしっかり確認させていただくことをご報告しご理解をいただいた。また他の利用者の方にも同様の対応をしながら施設サービスの改善を図った。

VI. 資料

1 サービスの延べ利用人数(人)

(平成26年度)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
定員 (2床×日数)		60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730
延べ 利用 人数	要支 援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	0	0	8	0	0	0	0	4	12	7	0	0	31
	2	2	2	6	4	0	5	5	5	9	14	15	19	86
	3	64	38	26	22	29	27	26	31	28	31	26	30	378
	4	0	0	2	11	26	16	14	20	42	30	38	0	199
	5	15	19	14	14	15	14	14	14	15	16	15	16	181
	合計	81	59	56	51	70	62	59	74	106	98	94	65	875
稼働 率：%		135	95	93	82	112	103	95	123	170	158	167	104	119

※定員を超えている月は、空床や入居者の入院による空きベッドを利用しているため。

平成 26 年度 特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家 訪問介護 事業報告書

I. 事業内容

老人居宅介護等事業（訪問介護事業・介護予防訪問介護事業）

II. 事業内容全般

要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、利用者個別の生活状況に応じて必要な支援を行うことに努めた。

III. 具体的な事業実施内容

1. 満足度向上に向けて

（計画内容）

利用者の方との信頼関係を大切にし、丁寧なケアを実施することで、利用者満足度調査の結果を、「4」以上（5点満点中）とする。

（実施状況）

9月にアンケート調査を実施した。アンケート項目全部の平均値は4.4となり、目標値を0.4ポイント上回った。

2. 稼働率の向上

（計画内容）

事業運営の安定化のため、月間の平均介護保険収入を、1,300,000円以上とする。

（実施状況）

今年度の介護保険収入は月平均で約1,072,670円となり、目標値を上回る実績をあげることが出来なかった。

IV. 資料

1. 訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数（回）（平成26年度）

	30分未満	30分以上	1時間以上	1時間半以上	2時間以上	2時間半以上	4時間以上	合計
身体介護	40	2029	459	10	0	0	0	2538
身体生活	0	42	321	90	0	0	0	453
生活援助	0	112	116	0	0	0	0	228
合計	40	2183	896	100	0	0	0	3219

2. 介護予防訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数（回）

	30分 以上	1時間 以上	合計
予防Ⅰ	3	199	202
予防Ⅱ	0	222	222
予防Ⅲ	0	305	305
合計	3	726	729

平成26年度 障害者支援施設 菰野聖十字の家 事業報告書

I. 事業内容

障害者支援施設（生活介護事業 定員75名、施設入所支援事業 定員60名）
障害者短期入所事業 : 5床
日中一時支援事業

II. 職員定数

看護職員、セラピストおよび生活支援員の配置数は、利用者に安心して、またその人らしい意欲的な生活の実現を目指すため人員配置体制加算（I）基準数の配置を維持した。

III. 運営の基本方針および事業目標

「利用者と誠実に向かい合い、その人とともにいき、感じ、その方が望む生活を実現していく」という目標のもと、施設を利用されている多様な障害をお持ちの方が、本当に安心して、その人らしい意欲的な生活の実現を目指す為に、接遇面の改善、対人援助技術やコミュニケーションスキルの向上、摂食・嚥下障害に関するケアの強化、療養環境の改善を図り、利用者が安心且つ意欲的な生活を送っていただけよう努めた。具体的な支援、サービス提供内容については下記に記載。

IV. 具体的な事業計画およびその内容

1. 施設入所支援・生活介護事業（入居部門）

(1) 利用者喜んで頂けるケアを実施し、利用者満足度アップに取り組む。

リーダーミーティングやサブリーダーミーティングから各チーム内での課題や解決困難事項を確認し意見交換を実施。各チームでは導き出す事の出来なかった対応方法等を確認する事が出来た。

(2) 利用者の方々が楽しく、健康で過ごしていただくための、より人間的な健康管理医療看護サービスを提供する。

①食事摂取量低下に伴う、体重減少・筋力低下・褥瘡が懸念される利用者に対してどのようにアプローチをしていくのか、サービス管理責任者・看護職員・言語聴覚士・管理栄養士・生活支援員でのカンファレンスを実施。利用者の嗜好や摂食状況・食事形態などを確認し、栄養マネジメント計画書の見直しを行い栄養・健康管理に努めた。

- ②毎月の体重測定や喫食調査を通して健康状態を確認。低栄養状態とされる利用者に対して、管理栄養士・言語聴覚士を中心として食形態や摂食状況の確認と必要に応じて補助食を取り入れ随時の評価を実施した。
- ③褥瘡予防に関して看護職員と生活支援員が連携し皮膚疾患が無いか随時報告を行った。これと併せて理学療法士や言語聴覚士を中心とし除圧マットを作成し褥瘡防止に努めた。エアマットの使用や、管理栄養士のマネジメントによる補助食の提供は今年度も継続して実施しているが、無圧マットなどの導入が必要と判断される利用者が増加傾向にあり、環境面の充実が課題の一つとなっている。
- (3) 利用者の方々に、継続して食べる楽しみを感じていただく為に、専門的な摂食・嚥下ケアを提供する。
- ①利用者の食事摂取に対する意欲の維持や健康管理などに関してポジショニングや食事形態の見直しを行うため、言語聴覚士・理学療法士・管理栄養士・看護職員生活支援員参加によるカンファレンスを実施。各部門が本人の生活の質の維持向上に向けて取り組むべき事や疑問点を出し合い、支援の方向性を共有する事が出来た。
- ②理学療法士、言語聴覚士を講師とし生活支援員を対象としての内部研修（適切な口腔ケアについて）を実施。継続して食事を食べていただく為の口腔ケアの重要性と誤った介助による誤嚥のリスク等を学び、生活支援員の意識の変化を感じる事が出来た。
- (4) 食事をよりおいしく、安全に食べていただくために、さまざまな障害の状況にあった食事形態や献立の多様化などの研究を行い、実際の献立に積極的に導入していく。
- ①4月、5月、6月に少人数制での夕食会を実施。リハビリルームに会場を設置し生活支援員との会話やカラオケを取り入れる事で、普段と異なった雰囲気を感じていただくことが出来た。食事に関しては利用者の意向を確認し外注を行った。
- ②年間行事として6月、9月、11月に昼食会を実施。入居者ミーティングで意向を確認し、管理栄養士と相談しメニューを決定する。実施後の評価としては、いつもと違った味を楽しめる事が出来たなどの声を頂いた。
- ③献立表に関しては文章によるメニュー表記からの具体的な改善が実施出来なかった。27年度に管理栄養士とサービス管理責任者を中心に食事内容の理解し易い掲示を検討実施する。
- (5) 介護事故、食中毒・感染症発生などに対する理解を高め、適切なリスクマネジメントを実施する
- ①事故、ヒヤリハット報告書の改善策に関して、障害者支援棟リスクマネジメント委員会のメンバーを中心とし、チーム毎や全職員または事案対象者で検討する体制を取る事で、障害者支援施設全体の問題であるという意識を持つ事が出来た。

一方で同様のヒヤリハット報告書が続いている事もあり、改善策が書面上の物だけになっている事も考えられ、再度報告書と改善策の重要性を理解する必要がある。

②平成26年度の骨折事故は3件。①廊下に置かれていたベッドが行動の妨げとなり転倒骨折 ②拘縮が強い方に外部から強い負荷が掛かったのではと推測される骨折 ③自立動作中の転倒骨折となっている。拘縮や麻痺、骨が脆くなっている利用者は多数おられ次年度は改めて理学療法士を中心に移乗・動作の適切な方法と身体の仕組みに関する研修を行い事故率の減少に努める。自立動作の妨げとなり危険と予測される環境に関しては、障害者支援棟環境整備委員会を中心に見直しを行い、未然に事故を防ぐよう努めて行く。

③障害者支援棟感染症対策委員会を中心に内部研修を行うと共に、感染予防・特別対応方法などを全職員の目の届く場所に掲示する事で意識の高まりを持つ事が出来た。併せて施設全体でのマスク着用・手指消毒、うがいの徹底・私服での通勤を行う事で、感染に対するより一層の意識の高まりをみる事が出来た。これによりインフルエンザは発症したものの大きな広がり混乱には至らなかった。

(6) 障害者スポーツ・創作活動・生産活動を実施する事で、楽しみや生きがいを提供し且つ健康的な日常を過ごしていただく。

①小グループでのおやつ会やナイトバー、誕生日会、車椅子ダンス、映画上映会等を実施した。利用者から「楽しかった、又実施して欲しい」といった声を頂いた。映画に関して来年度はより一層充実したものとなるよう、利用者の意向を確認しながら内容の検討を行っていく。

障害者支援棟レクリエーション委員会によって企画された日中活動として

*カラオケ大会

*書道

*絵手紙

がある。書道は作品を展示し絵手紙は希望される方はご家族に送らせて頂き喜びを示していただいた。

②作業療法士による創作活動を月曜日と水曜日に実施。共同の作品はロビーに展示し参加者の高い製作意欲が見て取る事が出来た。マフラーやコースターはご自分で作られたものをその後使用され、達成感と喜びを感じておられた。

③外部ボランティアを取り入れ随時実施した。利用者から大きな拍手があがる等楽しんで頂けた。

④新たな障害者スポーツとしてボッチャを取り入れた。重度の障害を持っておられる方が実施出来るスポーツとして考案されたものであり、10月にボッチャに関する講義を受講した。

- (7) 利用者の直接の声を聞き、社会参加をすすめる事で、日常生活における満足度の向上を図る。

今年度も外出意向が多数聞かれた。年間行事であるショッピングや日帰り旅行への支援と併せて、外食や買い物・在宅時の馴染みの場所への外出・スポーツ感染・美術鑑賞など希望に基づき計画を立案し実施した。楽しみを感じていただくと共に社会交流の機会を持って頂けるよう努めた。

【平成26年度の外出実績】（年間行事は除く）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施回数	5	8	6	6	3	2	4	8	2	0	1	3	48回
延べ利用者数	17	9	7	8	3	2	4	8	2	0	1	3	64名

その他、弁当を購入しての園庭でのピクニックや、同室者や食の嗜好の合う方同士で外注した食事を一緒に食べ交流を図っていただいた。

【平成26年度の外出先例】

分類	外出先 例
外食	コーヒー店・回転寿司・ステーキハウス・ファミリーレストランなど
買い物	イオンモール東員・イオン菰野・イオン鈴鹿・アピタ四日市・ピアゴ菰野・イオン尾平・しまむら菰野店・ユニクロなど
観光	加佐登祭り
スポーツ観戦	ナゴヤドーム（プロ野球観戦）
趣味・娯楽	パラミタミュージアム（ピアノコンサート）・県立博物館
その他	鈴鹿ハンターでの陶芸展・愛知県立名古屋特別支援学校（母校訪問）・友人面会・墓参り

- (8) 利用者の身体機能の維持・向上ができ活動的に過ごしていただけるよう努める

①理学療法…リハビリテーションが必要とされる利用者に対しリハビリテーション計画を他職種とも協力しながら作成。身体機能の維持向上にむけて関節可動域訓練や歩行訓練等を実施した。

②作業療法…身体機能の維持向上を目指し個別の機能訓練を実施。月・水曜日には集団および個別での創作活動を実施。希望者も多数おり意欲的に取り組む姿勢が見られた。

③言語聴覚療法…食事を安全に美味しく食べていただく為に嚥下機能の評価や摂取時の姿勢やポジショニング・食事環境の評価を実施。管理栄養士・看護職員・生活支援員と連携し食形態や栄養状態の確認、見直し評価を実施した。必要に応じてカンファレンスを実施し、利用者の生活の質の向上に努めた。

- (9) 職員のケアの質と専門性の向上、利用者・家族等との良好な関係を築きあげる

為の教育訓練を実施する。

【平成26年度 介護看護入居部門 施設内専門研修】

実施月	対象職員	内容
4月	生活支援員	入浴機器の安全な取り扱いについて
6月	生活支援員	障害者総合支援法における計画作成とサービス提供のプロセス
7月	生活支援員	口腔ケアについて*講師 理学療法士
8月	セラピスト	リハビリ時等に吸引などを必要とする利用者への対応について
8月	生活支援員	適切な個別支援計画書の作成方法について
11月	全職員	感染症に対する知識向上と施設で出来る拡大防止方法について
1月	全職員	ハラスメントをなくすために職員が認識すべき事項について
2月	生活支援員	利用者の為のリスクマネジメント（事故防止・虐待防止・苦情対応など）

①各研修ともに積極的な参加姿勢がみられ専門的な知識と技術の向上に努めた。

②接遇マナーやコミュニケーション技法に関する研修を実施。重要性の理解はある程度しているものの個々のケアの質は、さらなる高みを期待出来るものと考え、来年度も研修などを実施し利用者家族から信頼され、頼りとされる職員の育成に努める。

(10) 職員の意欲が維持向上される環境作りに努める。

来年度も職員の意欲が維持されるよう、管理監督職員はより一層の積極的な関わりと、評価されるべき取り組みに関しては声に出して評価をする事でモチベーションアップを図っていく。

(11) 施設安定経営と、適切なサービス提供確保のための施設利用率の確保。

日々の感染予防と看護職員、管理栄養士、生活支援員で協力し適切な健康管理を行う事で入院者の減少に努めベッド稼働率は97.5%であった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率	94.2%	94.3%	96.9%	99.1%	98.4%	99.5%	99.6%	98.2%	98.6%	95.6%	97.1%	98.2%	97.5%

2. 短期入所事業（入居部門）

I. 事業内容

障害者短期入所事業 定員 5名

II. 施設方針および事業目標

利用者が自らの意志で、その方が望む、その方らしい在宅での生活を可能な限り維持していく為に、医療・介護・リハビリテーションの提供など、短期入所に伴う施設の様々な機能を利用して頂く事により、心身機能の向上と、安心出来る地域での生活を目指し、具体的な支援、サービスの提供を明確なプランを立て、ご家族や地域の様々な社会資源と連携し、より豊かな在宅での生活を実現していくよう努めた。

III. 具体的な事業計画およびその内容

(1) 利用者に安心・満足していただけるケアの提供

- ・短期入所事業においても個別支援計画を作成し、これに基づくケア内容を各チームが責任をもって実施する事で利用者に安心して利用いただけるよう努めた。
- ・利用者やご家族様からの施設サービスに対するご意見や想いを可能な限り確認する為、チャンスカードや苦情通知書を活用した。

(2) 在宅での生活状況に合わせたサービスの提供

- ・サービス管理責任者は可能な限り自宅訪問や面談をさせていただき、在宅での生活状況を確認することと併せて利用中の生活状況をお伝えする事で、ご家庭に近い居住環境と生活状況に合わせた個別サービスが提供出来るように努めた。
- ・相談支援事業所を利用されている方については、相談支援専門員に随時短期入所利用状況を報告すると共に、サービス担当者会議にも積極的に参加した。

(3) 職員のショートステイや通所（生活介護）等の在宅事業に関する理解の向上

- ・利用者やご家族の利用時における意向や在宅での生活状況などの周知を図り、在宅事業の役割と重要性の理解を持つ事が出来た。

(4) ご家族や他事業所との連携、連絡・相談体制の充実

- ・ご家族だけでなく、他事業所や行政・相談支援事業所との連携、情報共有を密にとり利用者がより良い在宅生活を営めるよう努めた。

(5) 通所との情報共有と連携、サービス内容の統一化

- ・通所とショートステイ併用利用者について、実施しているサービス内容や連絡事項などの情報を共有し、必要に応じて相互での協議を行い可能な限り統一したサービスの提供をする事で、安心して利用いただけるように努めた。

- (6) 日中活動（文化・娯楽・創作・生産活動等）の充実
- ・ご意向に応じた日中活動が提供出来るように利用者、ご家族からの意向を確認。これらを反映させた個別支援計画を作成し、文化・娯楽・生産活動の実施に努めた。
- (7) 満足いただけるサービスの提供を目指して
- ・利用者により良いサービスを提供する為、より安定した経営・運営を図る必要性があることから、年間平均稼働率98%以上を目標値としていた。今年度は目標値を上回る年間平均稼働率とする事が出来た。
- (8) 職員のケアの質と専門性の向上、利用者・家族などとの良好な関係を築き上げるための教育訓練を実施する
- ・接遇マナーやコミュニケーション技法に関する研修を実施。個々のケアの質のさらなる高みを期待し来年度も研修などを実施し、利用者家族から信頼され、頼りとされる職員の育成に努める。

3. 生活介護・日中一時支援（通所部門）

I. 事業概要

- (1) 営業日および利用時間
月曜日～日曜日：午前9時～午後5時
- (2) 利用定員 15名
- (3) 利用対象者
現在お住まいの市町村で、自立支援法に基づく支給決定を受けた方を対象。

II. 運営の基本方針および事業目標

利用者が安全に安心して生活を送ることができるよう支援にあたるとともに、個々に求められるニーズを的確に把握し、きめ細かなサービスの提供を行うことで利用者の満足に繋げていくことを基本方針および事業目標とし、食事の提供や入浴サービスをはじめ、創作活動・生産活動の機会の提供、社会交流および障がいのある方への地域生活促進等を進めながら、事業所・支援者との信頼関係のもと快適に過ごすことのできる生活の場の提供に努めた。また、職員には個々に持っている能力を十分に引き出すことができるように、指導・教育の機会を設け専門性の向上を図るとともに、個々に応じた評価体制を構築・活用していくことで、職員のスキルアップやモチベーションアップにも繋げていけるように努めた。

III. 具体的な事業計画およびその内容

<生活介護事業>

- (1) 利用者一人ひとりに対し、満足していただけるサービスの提供を職員全体で考え実践していく。
 - ①利用者一人ひとりのニーズに沿った個別支援計画書を作成していけるように、ご本人およびご家族への希望確認の聞き取りを丁寧を実施するとともに、計画の内容がご本人中心のものとなるように努めた。
 - ②利用者一人ひとりの障害特性および個別性に応じたサービス提供を実施するとともに、それぞれが持つコミュニケーション能力を活用しながら、利用者・ご家族との関係性の構築に努めた。
 - ③送迎および入浴サービス等のご希望実現に関して、可能な範囲で努めていくとともに、相談支援事業所によるサービス等利用計画が立案されている利用者に関しては、担当者会議に出席することで他事業所との情報共有を密とし、その方の生活の質の向上に努めた。
 - ④医療ケアが必要な利用者に対して、ご本人の状態やご家族との連携および緊急時の対応方法を密に確認し、それらの評価を重ねていくことで、利用者が安心してご利用いただくことのできる支援方法を段階的に進めていくことができた。
 - ⑤数ヶ月間にわたり精神的落ち込みが見られていた利用者に対して、傾聴・共感の姿勢で支援し続けることで、落ち着き・笑顔が見られるようになった。
 - ⑥記録管理システムを使用していくことで、利用者の心身状態の把握およびご家族への情報提供に活用した。
 - ⑦当施設の短期入所を併用利用されている利用者に対して、入居部門との情報共有および協力体制を強化することで、サービスの向上および事故や苦情の発生防止に繋げていけるように努めた。
- (2) 日中活動の充実を図る。
 - ①現在利用者より好評を受けて取り組んでいる文化的活動、創作活動、レクリエーション等は継続して実施しながら、随時新しい活動内容のご希望等が見られないかの確認に努めた。
 - ②利用者の希望に応じて、新しいレクリエーションの種類を増やした。
 - ③年間行事について、毎月のミーティング時に良かった点・改善点等の評価を行い、次回に活用していけるように努めた。
 - ④生産活動的な取り組みについては、何をどのように実施していくのかを職員全体で検討・協議することに努めた。
- (3) 利用者の安心・安全配慮に努める。(リスクマネジメント管理)
 - ①利用者に安心・安全に生活していただくために、「発生してしまった事故や苦情にどのように対応し是正していくのか」だけでなく、「日々の生活支援のな

かで、どのような気づきや危険予測を行なうことができるのか」といった視点のもと、ヒヤリハット報告書の作成・周知に努めることで、利用者の安心や安全配慮に努めた。

- ②毎月の法人リスクマネジメント委員会に参加し、発生した事故・ヒヤリハットを報告、委員会で検討・協議された内容のなかで特に注意が必要なものに関して確認し、同様の事故や苦情を発生させないように周知・注意喚起に努めた。
- ③てんかん発作時の対応方法について、その種類や留意点等を学習することで、発作をお持ちである利用者への安全配慮に努めた。
- ④利用者の高齢化に伴うリスクに対して、普段の見守り対応や食事時の状態確認および移乗介助における留意点等を再確認することで、安全な介助方法の実践に努めた。
- ⑤毎朝のバイタル測定値に留意するとともに、体温・血圧・脈拍等の基準値を職員全体で再確認した。その上で、いつもと異なる数値や状態等が見られた際は、看護師・ご家族への報告および様子観察に努めた。
- ⑥利用者に対し不利益な環境をつくらないように「接遇マナー」や「不適切ケア」についての内部研修を実施し、ミーティング時に近々の状況の振り返りおよび注意喚起に努めた。
- ⑦平成26年度に発生した事故件数は4件、苦情は2件。どちらも目標数値内に留めることができた。

(4) 職員のスキルアップや意欲向上を図るための研修等を積極的に行なっていく。

- ①職員個々のスキルアップや事業所全体のレベルアップを目的とした教育訓練を年6回実施した。また、個々に抱えている困難ケースや日々の業務において感じている課題や改善点等について、職員全体で検討する取り組み（ケアカンファレンス）を年6回実施した。
- ②職員個々に目標を設定し、1年を通じてその実践に努めた。また、半年ごとにその経過状況をレポート提出することで、目標の達成度を部門長と確認し、職員のスキルアップや意欲向上に繋げていけるように努めた。
- ③外部研修については、5月の障がい福祉サービス事業所基礎研修に職員3名が参加し本人主体のサービスについて学習した。9月の相談支援従事者初任者研修に1名参加、11月のサービス管理責任者研修に1名参加し、それぞれ勉強になった内容等についてミーティング時に発表した。

【平成26年度 教育訓練項目】

6月	障害者（児）の行動・ 心理的特徴の理解について	11月	障害特性の把握および コミュニケーションについて
8月	介護者の腰痛予防について	12月	利用者のための リスクマネジメントについて
8月	個別支援計画書の意義・ 具体的活用方法について	2月	安全運転講習について

<日中一時支援事業>

(1) 児童に対するサービス内容の充実を図る。

- ①障害児に提供していくサービス内容について、どのように関わりを持って支援していくことが適切であるのかを職員全体で検討し、また、安全で快適な場所の提供に繋げていけるように努めた。
- ②学校でのご様子等の情報収集を行なっていくため、特別支援学校の先生との連携を図りながら、「きららの教育一日体験」に職員3名が参加した。学校での取り組みおよび支援内容等を学習し、ミーティングにてその内容を共有し、職員全体での共通認識を高めた。
- ③障害特性の把握に繋がる研修を行うことで、身体障害のみならず、知的障害および自閉症の方に対する理解を深め、日々の生活支援に活かしていけるように努めた。

IV. 年間行事

【平成26年度 行事内容】

月	主な行事	月	主な行事
4月	花見	10月	運動会 外出
5月	家族交流会 外出	11月	外出 ハロウィン
6月	外出	12月	クリスマス会
7月	七夕創作 映画鑑賞会	1月	餅つき 新年会・お茶会
8月	納涼会	2月	豆まき バレンタインチョコ作り
9月	家族交流会	3月	雛祭り・映画鑑賞会

【平成26年度 外出支援の一例】

買い物	イオンタウン菰野、イオンモール東員 ジャズドリーム長島
観 光	ふれあい牧場、名古屋港水族館、なばなの里 セントレア、リニア鉄道館

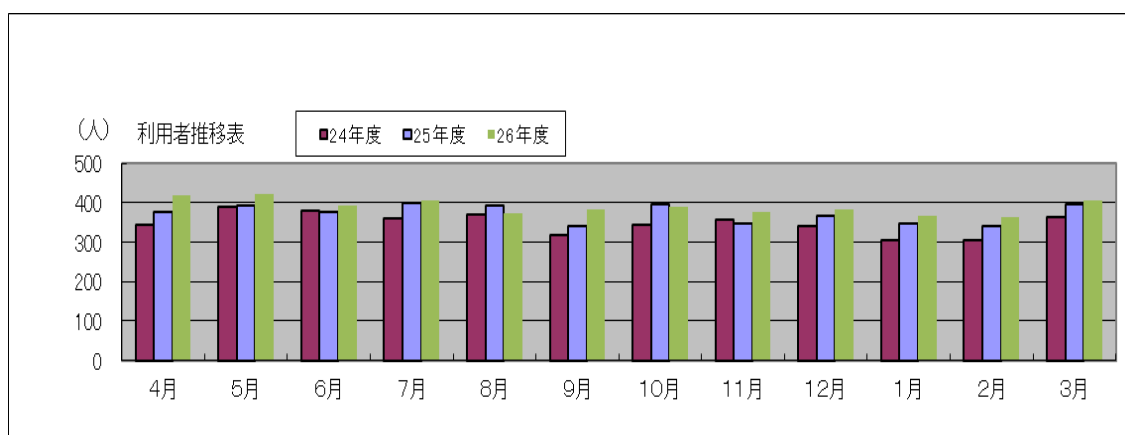
※外出支援の外出先については、利用者からの要望を取り入れながら、定期的に計画を立て、社会参加や地域交流の機会を提供していただけるように努めた。

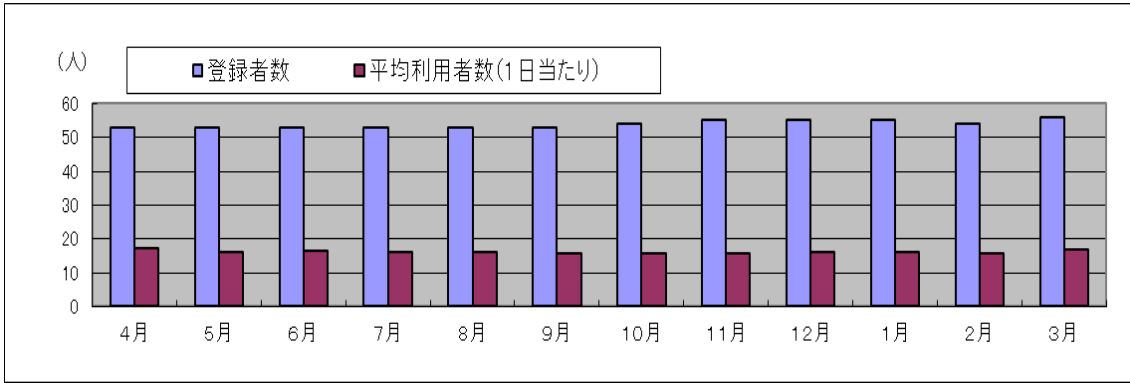
V. 月別利用者数

【生活介護事業】

生活介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
登録者	53	53	53	53	53	53	54	55	55	55	54	56		53
平均 (1日)	16.2	15.7	15.8	15.1	14.4	14.7	15.0	15.1	15.3	15.3	15.1	15.6		15.3
稼働率	107.7	104.4	105.1	100.5	96.2	98.2	100.0	100.8	102.1	102.2	100.8	103.9		101.8
26年度 利用者	420	423	394	407	375	383	390	378	383	368	363	405	4,689	390.8
25年度 利用者	377	393	378	400	394	341	395	346	367	347	340	395	4,473	372.8
24年度 利用者	344	389	380	360	371	319	343	358	342	306	304	364	4,180	348.3





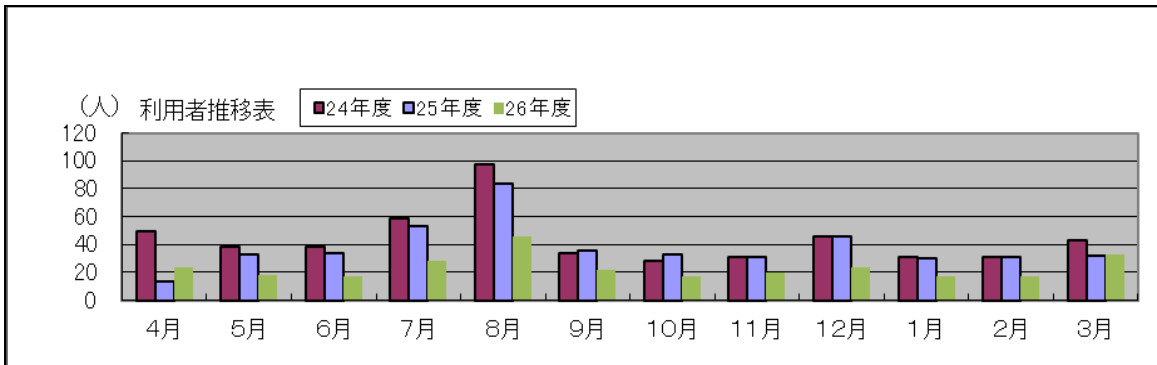
※平成26年度の生活介護事業における年間平均稼働率は101.8%にて、目標を達成することができた。

日中一時支援事業

(単位：人)

日中一時支援事業

利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
26年度	24	18	17	28	46	22	17	20	24	17	17	33	283	23.6
25年度	13	33	34	53	84	36	33	31	46	30	31	32	456	38.0
24年度	49	38	38	59	97	34	28	31	46	31	31	43	525	43.8



※平成25年3月に高等学校を卒業され、当事業所生活介護事業への利用切り替えや他事業所等の利用が始まった方が8名おられた。その方々が25年度に利用されていた1年間の利用総数が151回となり、26年度においては日中一時支援の登録者数および利用者数が激減してしまう結果となった。平成27年度は特別支援学校や地域の方々との連携を図り、新規利用者の獲得が課題として挙げられる。

平成 26 年度 特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家 事業報告書

I. 事業内容

1. 介護老人福祉施設事業（定員 90 名）
2. 居宅介護支援事業

II. 運営の基本方針および事業目標

当施設も行政や地域の事業所と連携を深め、地域になくってはならない施設として貢献できる姿を目指しながら運営に努めた。認知症があり混乱や不安に陥っている方に対しては、その思いに共感し、寄り添い、誠実に接することで、少しでも安心していただけるように支援し、終末期にある方には利用者の立場でご家族様としっかり対話を持ちながら、本当にその方が望む最期を迎えていただくよう丁寧な看取りを実践した。

また介護職員不足により、時には入居者をお待たせしたり、ご迷惑をおかけすることもあったが、入居者・ご家族に安心していただけるかに焦点をあてた介護技術の向上や接遇とコミュニケーションを念頭に置き、OJT や研修に取り組んだ。また施設外研修にも可能な限り参加し、職員のモチベーションとスキルのアップを目指し、利用者の満足度アップに貢献できる職員を育成するよう努めた。

III. 具体的な事業報告

1. 他職種連携のもと 3 カ月に 1 度、施設サービス計画書を作成、実行してきた。
また提供したサービスを記録することでどのようなサービスが適切かを定期的に検討する事を行ってきた。
 - (1) 他職種連携のもと入居者やご家族としっかりコミュニケーションをとることができ、またそれに基づいた施設サービス計画書を作成し、実行することに努めた。
 - (2) 作成された施設サービス計画書は入居者本人、またはご家族にしっかりと説明を行い同意をいただくことができた。
 - (3) 実施されたサービスは記録システムに記録をし、定期に見直しと検討を重ることができ、より良いサービスにつなげることができた。
2. 利用者満足向上のため、各委員会を定期的で開催し情報の共有や新たな取り決めなどを行ってきた。また入居者の生活スペースを清潔に保つため、掃除の頻度を増やすなどの取り組みを行ってきた。
 - (1) 認知症、入浴委員会は隔月、排泄委員会でのミーティングは毎月開催し、知識や情報を共有、及びサービスの見直しを行うことで、ケアの質に反映する事ができた。

- (2) 入居者が快適に生活できるように居室の清掃や整頓、家具類の設置については各班で実施をしてきた。また居室・トイレ・廊下などの清掃は介護職員、パート職員で分担し清潔な環境を提供する事ができた。においについては排泄委員で協議し、消臭剤の使用を継続して行うことができた。
- (3) 食に関しては栄養モニタリングを定期的の実施し、入居者の栄養状態の維持・改善を目指しながら検討し、安全で美味しい食事の提供を実施する事ができた。
- (4) チャンスカードについてはあまり有効に機能していなかったが、現場で気づいたことや気になることについては、その場で早期対応をしていた。今後チャンスカードの有効性や利用方法などについては検討する必要がある。

3. 認知症ケアについて、2か月に1度、認知症委員のメンバーがミーティングを実施。内部研修でも認知症ケアについての議題を認知症から来る混乱や不安が軽減できるよう専門性の高いケアを反映することができた。

- (1) 認知症ケアについて、認知症担当職員が隔月で委員会を開催し認知症の特性や対応時の言葉遣い、感情のコントロールの重要性を学ぶことで専門性の高いケアを提供することができた。そして議事録で内容を全職員で共有した。
- (2) 1月の内部研修にて認知症及び認知症ケアに関する知識を深め専門性の向上を図った。外部研修に関しては3月にバリデーシヨンの研修に参加。以前もバリデーシヨンについて学んだが、今後も認知症ケアに取り入れていく。

4. 今年度も多数の方の看取りを行い利用者ご家族からいくつか感謝の言葉もいただくことができた。

- (1) ターミナルケアを開始する際は、医師、看護師と主任・副主任を中心としたワーカーから丁寧な説明を行い、入居者様のご家族が抱かされている「死」に対する不安などを軽減することに配慮し、最期まで看取らせていただく事をお約束することで信頼を得ることに努めた。
- (2) 終末期ケア計画書は入居者様やご家族の意向を伺い、計画書に反映する事ができた。

5. 利用者に安心して生活していただくための事故防止・感染症の防止・食中毒の防止に努めたが、入居者のインフルエンザは新館本館合わせて6名発生してしまった。

- (1) 毎月開催しているリスクマネジメント委員会で内容を吟味し、その再発防止策に関して部署を超えた意見交換を行い、各現場で事故防止に取り組んだ。
- (2) 感染性胃腸炎は防止できたが、インフルエンザについては本館2名、新館4名の入居者が罹患した。ただ迅速に個室対応を実施し感染拡大は防ぐ事ができた。職員は10月より全員マスク着用、食事前の手指及びテーブル消毒を実施してきた。罹患患者が出た際は感染症マニュアルを基に職員全員が迅速に従う事ができ、感染拡大を防ぐ事ができた。

6. 職員の業務に対するモチベーションを上げるとともに、職員一人ひとりが意見の出しやすい職場（土壌）作りを継続するよう努めた。
 - (1) 毎月のレポートの中で施設に対する意見をあげてもらい、その内容をリーダーミーティングで協議し、実施可能なことはすぐに実施し、実施できないことも理由をはっきりとさせてリーダーミーティング議事録で全職員に分かるようにフィードバックした。
 - (2) 主任・副主任・リーダーが職員個々との対話の時間を設けることで悩みの解決やモチベーションアップできるように助言を行うよう努めた。

7. 内容を吟味した教育訓練を内部研修という形で毎月実施することで、利用者の方々に安心していただけるケアの質と専門性の向上を図った。また外部研修としても介護職員の生涯学習やスキルアップ等の内容を吟味し、年間10回（本館・新館合計）以上参加することができた。（具体的内容は「VI. 職員研修の実施状況 1. 内部研修、2. 外部研修」参照）

8. 文化・教養活動の充実を図るため、職員が実施している朗読クラブ、書道クラブ、映画放映をほぼ毎月、継続開催するとともに歌や民話等のボランティアや子ども園の園児との交流を実施した。こども園との交流は入居様がとても喜ばれるため計画通り4回実施することができた。入居様の笑顔が多く見られる取り組みなので次年度も実施予定としたい。

9. 施設安定経営と、適切なサービス提供確保のための施設利用率の確保に努めた。
 - (1) 生活相談員業務のできる職員の養成に取り組むとともに、加算等の算定も十分に考慮した管理を実施した。次年度はさらに実践的な内容で継続する。
 - (2) 行政、関係機関とも連携をとり、空きベッドが生じない管理に努めた。最終的にベッド稼働率 99.09%（入居・短期入所合計）を確保することができた。

IV. 地域との交流

地域交流事業として以下のような行事を企画、実行した。

1. 入居者・家族交流会（5月・9月：ご家族との交流）
2. 盆踊り大会（7月：地域住民・子供会・婦人会との交流）
3. 交流運動会（10月：こども園児・地域住民・老人クラブとの交流）
4. 認定こども園との交流会（5、7、10、12月：聖マリア認定こども園児との交流）
5. その他協力校等との連携により、以下のボランティア体験、実習等を実施した。
 - (1) 三重県職員研修センター（新規採用県職員福祉施設研修）
 - (2) メリノール女学院高等学校（ボランティア体験）
 - (3) ユマニテク教育支援センター（公共職業訓練介護職場実習）
 - (4) 聖十字看護専門学校（老年看護学実習）
 - (5) 八風中学校（職場体験学習）

V. 年間行事

4月	桜のお花見
5月	家族交流会、こども園との交流会・藤のお花見
6月	お楽しみ食事会・防災訓練
7月	七夕・盆踊り・かき氷（毎週火曜）・こども園との交流会
8月	お楽しみ食事会・かき氷（毎週火曜）
9月	敬老の日家族交流会・かき氷（毎週火曜）
10月	運動会・コスモス見学・こども園との交流会・メリノールボランティア
11月	お楽しみ食事会・防災訓練
12月	クリスマスイヴ礼拝・クリスマス会・こども園との交流会
1月	入居者新年会・餅つき（こども園のみ開催）
2月	節分（豆まき）・初釜
3月	防災訓練・お楽しみ食事会

その他、施設内・外の行事を多数実施した。

VI. 職員研修の実施状況

1. 内部研修

(1) 専門職研修

対象者：介護・看護職員

講師：施設長・主任・生活相談員・栄養士・リスクマネジメント委員・排泄ケア委員等

- 4月 法人新人職員研修
高齢者虐待防止について
- 5月 事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について
- 6月 「感染症の発生及び食中毒」の予防及びまん延の防止に関して
- 7月 介護職員が実施する吸痰について
- 8月 倫理及び法令遵守について
- 9月 利用者等のプライバシーの保護の取組みについて
- 10月 医療に関する知識・褥瘡予防のケアについて
- 11月 24時間連絡体制について
- 12月 身体的拘束等の排除のための取組みに関して
- 1月 認知症に関する知識及び認知症ケアに関して
高齢者の権利擁護について
- 2月 看取りについて
ハラスメントについて
- 3月 非常災害時の対応について

2. 外部研修

外部研修としても介護職員の生涯学習やスキルアップ等の内容を吟味し、年間10回（本館・新館合計）以上参加することができた。

(1) 三重県社会福祉協議会主催：社会福祉施設職員研修

- ①新任職員研修Ⅰ・Ⅱ（実施月6、7月）
- ②中堅職員研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（実施月7、8、9月）
- ③指導的職員研修Ⅰ・Ⅱ（実施月10、11月）

(2) その他

- ①認定調査員現任者研修会（実施月7月）
- ②リスクマネジメント実践セミナー（実施月11月）

Ⅶ. 資料

(1) 月別入居者数（平成26年度）

①特別養護老人ホーム

区分	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	月初人数	89	87	90	87	88	88	87	88	88	87	89	87	-
	入居	2	5	1	2	1	1	5	1	3	3	4	3	31
退所	死亡	3	2	4	1	1	2	3	1	4	1	6	3	31
	入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	家庭復帰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

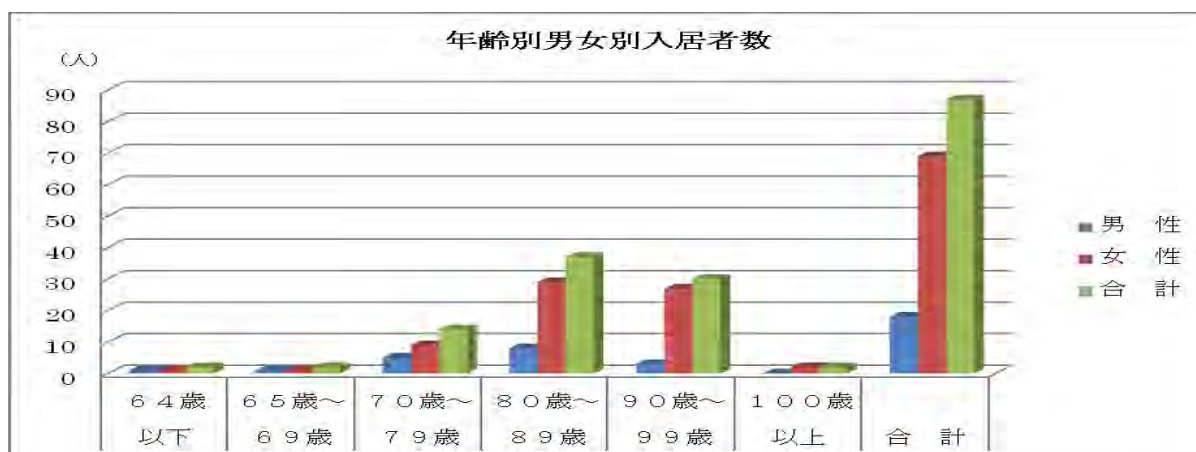
※死亡退居は31名で月平均2～3名となっている。また次ページ資料（3）でもわかるとおり、入居いただく方の重度化が進んでいると言える。

また退居された後はスムーズに入居いただいております、大きな稼働率の低下にはつながっていない。

(2) 年齢別男女入居者数

平成27年3月31日現在

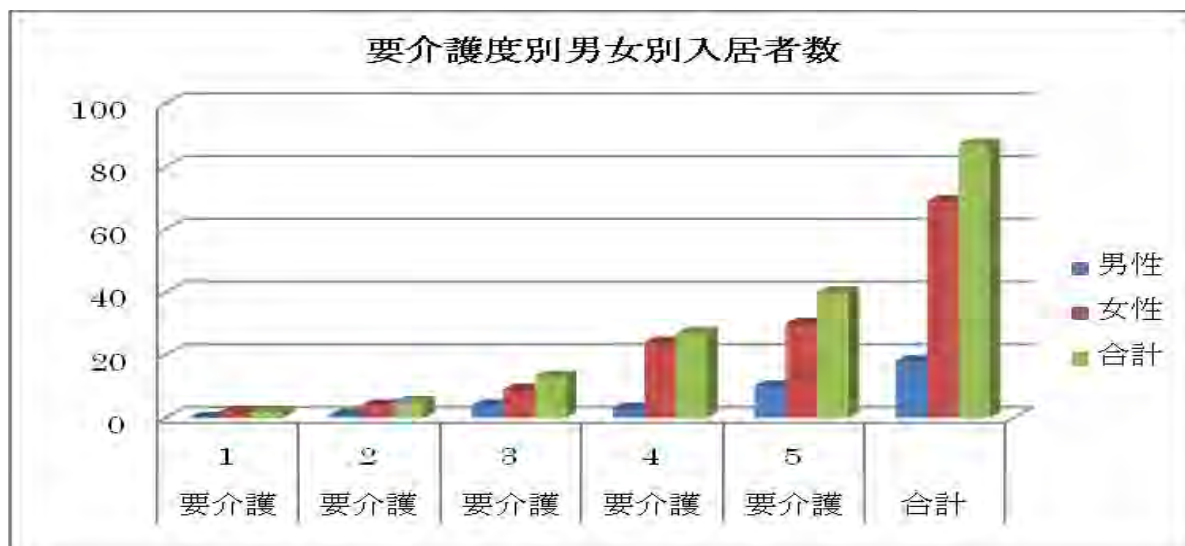
	64歳以下	65歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳～ 99歳	100歳 以上	合計
男性	1	1	5	8	3	0	18
女性	1	1	9	29	27	2	69
合計	2	2	14	37	30	2	87



(3) 男女別要介護度

平成 27 年 3 月 31 日現在

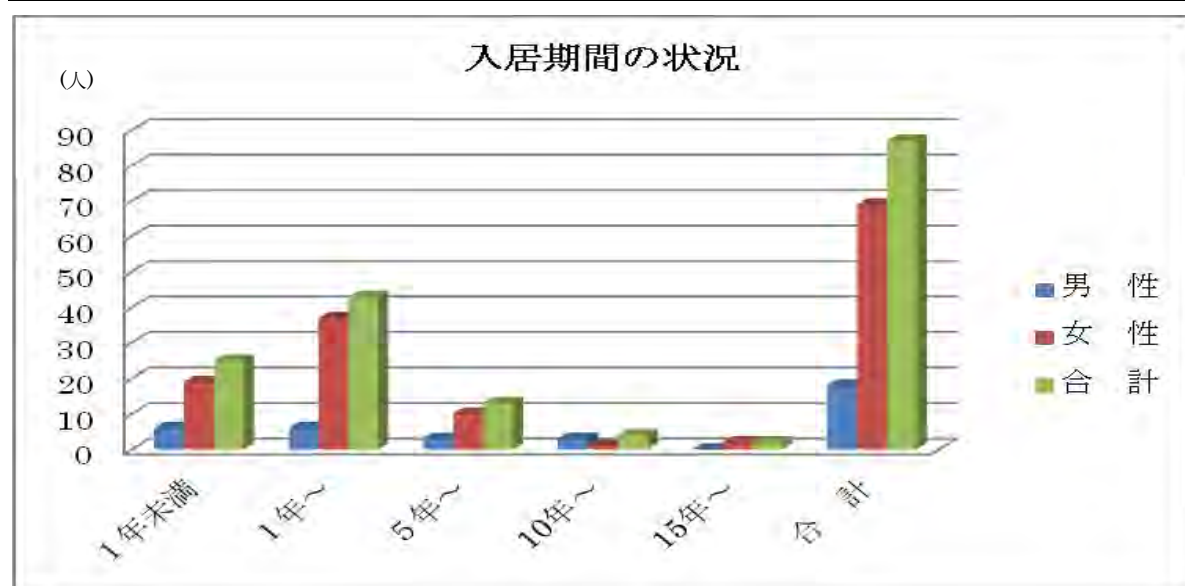
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
男性	0	1	4	3	10	18
女性	2	4	9	24	30	69
合計	2	5	13	27	40	87



(4) 入居期間の状況

平成 27 年 3 月 31 日現在

	1年未満	1年～	5年～	10年～	15年～	合 計
男 性	6	6	3	3	0	18
女 性	19	37	10	1	2	69
合 計	25	43	13	4	2	87



(5) 保険者別入居者数

平成 27 年 3 月 31 日現在

保 険 者 名	入 居 者 数		合 計
	男 性	女 性	
菰野町	8	32	40
四日市市	7	28	35
鈴鹿亀山	1	4	5
名古屋市	1	0	1
いなべ市	1	1	2
志摩市	0	1	1
東員町	0	1	1
川越町	0	0	0
松阪市	0	1	1
瀬戸市	0	1	1
合 計	18	69	87

※住所地特例施設ではあるが、やはり菰野町・四日市市という地元の方に多くご利用いただいていることが確認できた。

VIII. 居宅介護支援事業

1. 利用者、家族、他事業所との連携を強化し、利用者の望む在宅生活を支援することを目的として事業を実施した。

- (1) 併設の三重聖十字病院と緊密に連携を持ち、退院して再入院されるまで在宅でのターミナルケア支援を実施するなど強化に努めた。
- (2) 他の医療機関や関係機関・事業所との連携を強化し、効果的な在宅介護・看護が提供できる体制を構築しながら、新規獲得に力をいれた。
- (3) 医療ニーズの高い方にも対応できるようなスキルアップ研修へ積極的に参加した。

要介護・要支援区分別 居宅介護支援実績推移表（平成 26 年度）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援 1	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
要支援 2	3	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3
要支援 合計	7	5	5	4	4	4	5	4	4	4	4	5
要介護 1	16	18	18	21	22	19	20	20	20	21	21	18
要介護 2	17	17	16	15	16	15	10	13	12	14	14	17

要介護3	6	6	6	7	7	5	9	9	8	9	8	8
要介護4	4	6	6	8	7	7	7	9	7	8	10	8
要介護5	4	2	1	1	2	2	2	1	3	2	2	2
要介護 合計	47	49	47	52	54	48	48	52	50	54	55	53
総合計	54	54	52	56	58	52	53	56	54	58	59	58



平成 26 年度
特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家
短期入所生活介護
事業報告書

I. 事業内容

- ・短期入所生活介護
- ・介護予防短期入所生活介護 7床（併設型短期入所生活介護）

II. 運営の基本方針および事業目標

国が推進する地域包括ケアの一端を担い、地域になくてはならない短期入所事業所としての位置づけを得るため、行政や他の事業所と連携し緊急利用の依頼には可能な限り対応するよう努めた。また、その方の望む生活を維持するために、通常のサービスやリハビリテーションに加え、お話の傾聴、疼痛緩和、ご家族への連絡調整等を状況に合わせ実施し、最期までその人らしい人生を過ごしていただくための援助を実施してきた。また医療、介護、リハビリテーションの提供など、短期入所に伴う施設の様々な機能を利用していただくことにより、心身機能の向上と、安心できる地域での生活を支援できるよう多職種が協働しながら取り組んだ。実際の介護サービスの提供の場においては、現在のチームケア体制を中心に、できる限り在宅での生活の内容や環境を施設内で作りながら、利用者に寄り添い、より安心していただける関係づくりはどうしたら効果的か模索し取り組んだ。

また、その他のサービス提供の面では介護老人福祉施設の本事業に準じて、区別なく提供させていただいた。

III. 具体的な事業報告およびその内容

1. 在宅での生活状況に合わせた個別サービスの提供

事前面接訪問・居宅ケアプラン等による情報の収集により利用者一人ひとりの障害の状況や在宅での生活状況（ベッドの位置や介護用品等）に合わせて、ご家庭での生活を維持継続していく形を基本として、施設での生活環境を作り出した。また、趣味や教養娯楽活動についても、施設にある既存の活動内容だけでなく、ご自宅で実施されていた趣味的活動を可能な限り施設でも続けていただけるよう支援した。さらに、食事、入浴、排泄等介護サービス内容についても、利用者ご本人の意思や嗜好を十分に把握し、希望に沿ったサービスを提供した。初回利用の方及び継続的に当施設の短期入所生活介護を利用されている方のサービス担当者会議には積極的に参加し、他事業所の意見、ご家族の現在の気持ち等を聞き、モニタリングを行うことにより、サービスの向上を目指した。

2. 地域との連携

菰野町社会福祉協議会にて行われる、事業者会議及び地域ケア会議に毎月参加した。地域福祉の現状や課題を知ることで、在宅におられる利用者へのサービス提供や利用者・家族との相談をスムーズに進めることができた。また、近隣福祉施設との交流を図ることで、在宅の福祉サービス困難者を地域で助けあい、援助させていただくことができた。

3. ご家族様との連携

ケアマネジャーやご家族様に定期的な訪問や電話を行い、要望や注意事項などを伺った。それにより、個別のサービス提供の満足度向上につなげることができた。希望があれば理学療法士による専門的なりハビリも提供した。

利用者様の重度化に伴い増加している、ショートステイ中の体調不良やショートステイ中の死亡に対応できるようご家族様とのコミュニケーションを密にした。具体的には利用者様やご家族様の意向を確実に把握し、また主治医の往診、死亡診断が出来る体勢をとった。

4. 送迎および家族連絡体制の強化

送迎専門職員を配置することにより、職員の負担を大幅に軽減し、その分を利用者へのサービス向上にむけることができた。また、朝食時からの受け入れ、夕食後の退所など様々な入退所の要望にお応えした。(ご家族送迎の方を含む)「サービス提供報告書」「施設看護介護経過記録」を用いてご家族様への連絡、報告、情報提供を行った。また、重要な事項に関しては、お電話及び送迎時に口頭で説明を行った。

障害者支援施設との連携を図り、障害者の方と保護者（ご高齢の要介護者等）が同時に安心して利用できる体制を整えた。

5. 持ち物の紛失・忘れ物の防止

持ち物の紛失・忘れ物に全職員が責任を持てるようにした。具体的には紛失・忘れ物等の謝罪の電話は必ず担当職員が行い、忘れ物の場合は基本的に当日中に担当職員がご自宅に届ける体制とした。それにより一人ひとりの職員に責任を持たすことができた。なおそれでも忘れ物をすべてなくすことはできず、次年度の課題として残った。

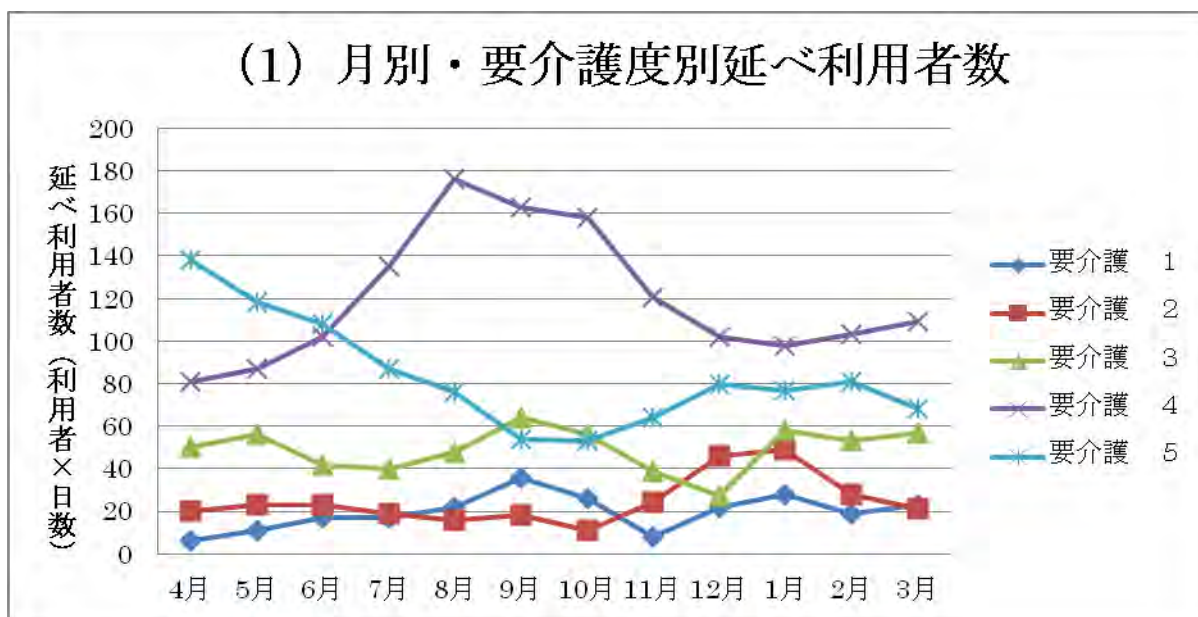
6. その他

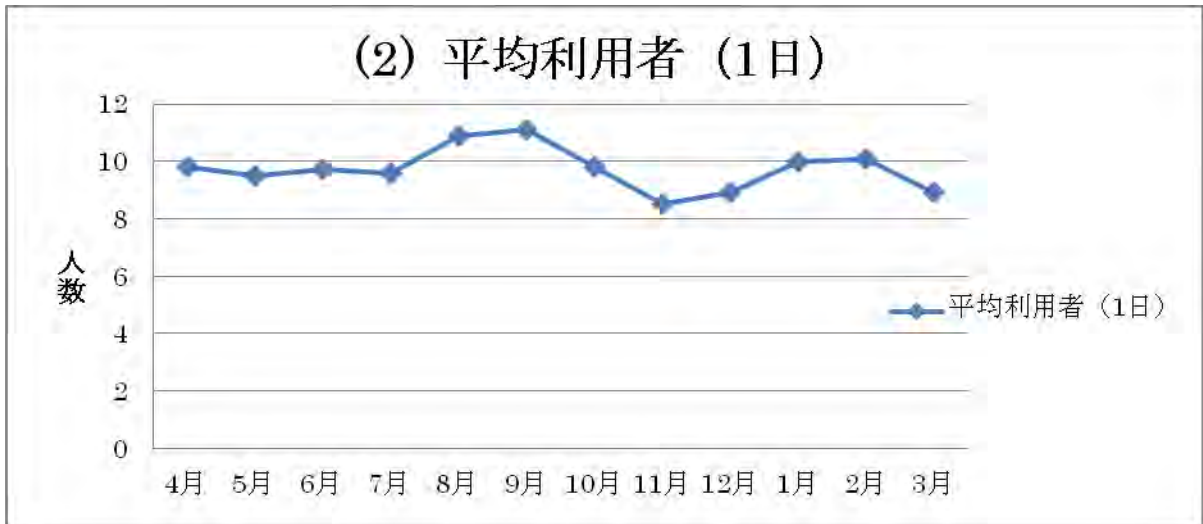
その他は介護老人福祉施設の併設事業であるため、本事業に準じている。

IV. 月別利用実績

月別短期入所生活介護利用人数(延べ)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	6	11	17	17	22	36	26	8	22	28	19	23	235
要介護2	20	23	23	19	16	18	11	24	46	49	28	21	298
要介護3	50	56	42	40	48	64	56	39	27	58	53	57	590
要介護4	81	87	102	135	176	163	158	121	102	98	103	109	1435
要介護5	138	118	108	87	76	54	53	64	80	77	81	68	1004
合計	295	295	292	298	338	335	304	256	277	310	284	278	3562
平均利用者(1日)	98	9.5	9.7	9.6	10.9	11.1	9.8	8.5	8.9	10	10.1	8.9	116.8





※ 入居稼働率とは本入居、短期入所生活介護を含めた稼働率のことである。(100%で97床満床)

※10月の聖十字四日市老人福祉施設の開設にあたり、当事業所利用者が数名、聖十字四日市老人福祉施設の入所、ショートステイの利用に切り替わった。また、10月から3月までの半年間に退所が21人と多く、年間退所の約62%を占めた。(特に12月は4人、2月は6人と多かった) それに加え、冬期はショートステイ利用予定者の入院や体調不良にてキャンセルが多く発生した。

上記が10月から稼働率が下がった要因となった。

他事業所等との連携等により新規の利用者を増やすことで2月以降、稼働率を戻すことができ、平成26年度の年間入居稼働率は99.09%となった。

平成 26 年度 介護老人保健施設 聖十字ハイッ 事業報告書

I. 事業内容

- ・介護老人保健施設 100 床
- ・短期入所療養介護
- ・通所リハビリテーション

II. 基本方針及び事業目標

地域の福祉拠点として「利用者と誠実に向かい合い、その人とともに生き、感じ、その方が望む生活を実現していく」という目標のもと、地域の福祉サービスを必要とする方々が、本当に安心して、その人らしい意欲的な生活の実現を目指すために、その方の不安や混乱の内容を共感し、職員がその苦しみに誠実に寄り添い、ともに課題を乗り越え、自立した生活を送ることができる福祉拠点として、通所リハビリテーション・ショートステイ・施設入居等でリハビリテーションサービスを包括的に提供し、高齢者ができる限り住み慣れた地域で日常生活が営むことができるような支援を行うことを目標とし、以下の取り組みを実施した。

III. 平成 26 年度の主な取り組み内容

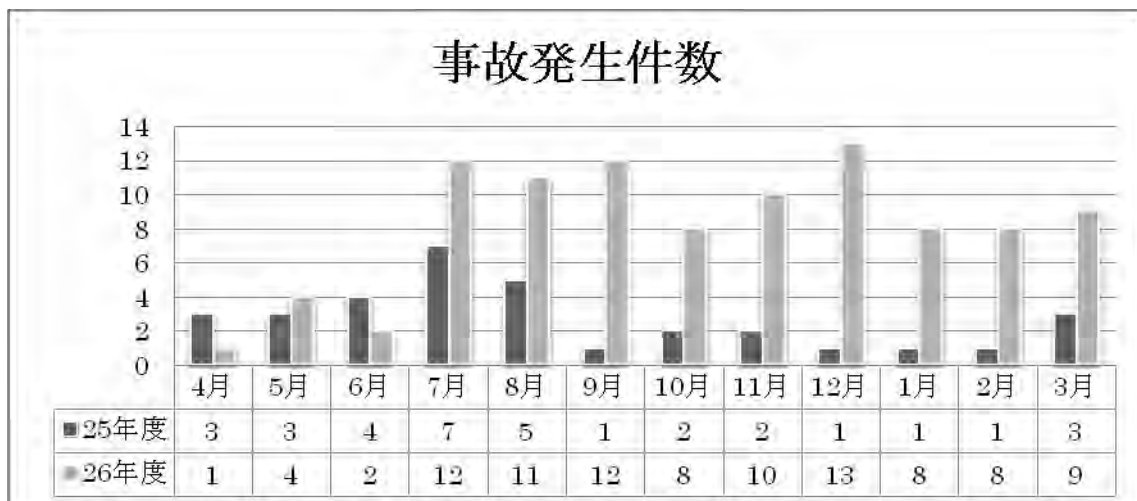
1. 利用者が安心・満足されるサービスの実施と残存機能を維持向上させる取り組み
 - (1) 認知症ケアでは、バリデーションの手法等、様々な方法を導入し、利用者に寄り添い、否定せず、心の声をじっくり聴く取り組みを進めた。
 - (2) 理学療法士・作業療法士を中心に分析・評価を行い利用者一人ひとりの状態や希望に沿ったリハビリテーションを実施し、ADL の向上を目指した。
基本動作訓練の内容・・・寝返り訓練・起き上がり訓練・座位訓練・立ち上がり訓練・立位・バランス訓練・移動・移乗時訓練・歩行訓練
治療中訓練内容・・・基本動作訓練・呼吸・排痰訓練・疼痛に対する訓練・失行・失認に対する訓練・耐久力増強訓練・関節可動域訓練・筋力増強訓練
 - (3) 音楽療法士 (MT) を昨年に引き続き導入し、音楽を用いたより専門的なリハビリテーション活動を実施した。
 - (4) 作業療法士・看護、介護職員・ボランティアと連携しながら、認知症の方へ

のグループワーク・レクレーション活動・リトミック等の音楽活動を行い、利用者一人ひとりの安心・満足の実現に努めた。

(5) 嗜好調査の実施し利用者の食事形態・食事量を分析し、3ヶ月毎に利用者一人ひとりに合った栄養ケア計画を作成した。また、季節感を取り入れた食事提供と週1回以上の選択食を献立に取り入れ、食事の充実に努めた。

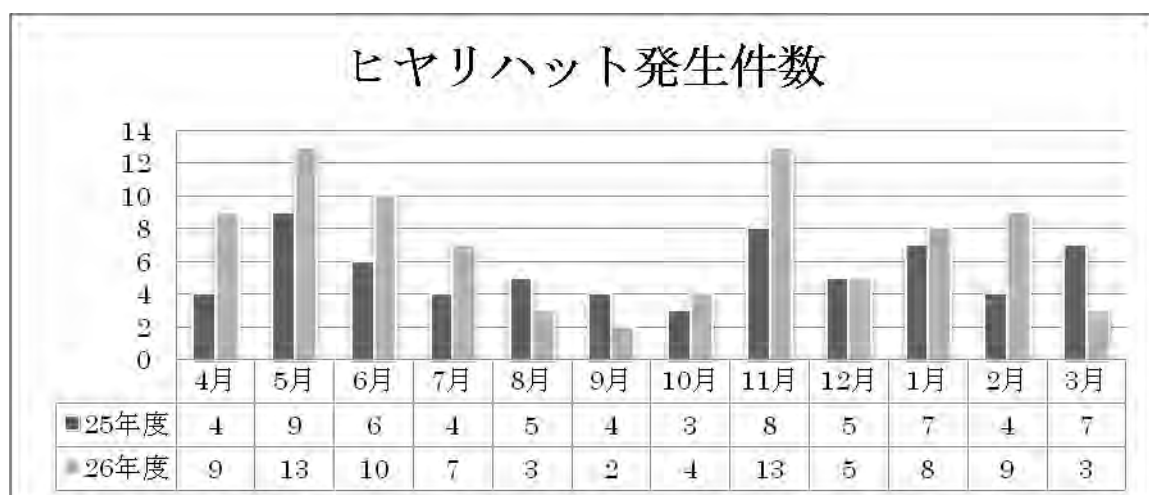
(6) リスクマネジメント委員会を毎月開催し、その中で事故事例に分析・検討を行い、事故の原因及び再発防止策を明示し、具体的な対応方法の周知徹底を図った。

資料1：【平成26年度 月間事故報告件数（事故報告）】前年比



※H26年7月より表皮剥離を事故に含めることにしたため、事故件数が増加。

資料2：【平成26年度 月間事故報告件数（ヒヤリハット）】前年比



2. 職員のレベルアップを図るための教育・研修

(1) 研修計画を、利用者の実例をふまえた具体的で即利用者へ反映できるものとなるよう見直し、その計画に沿って研修を実施・参加した。

・職員研修の実施状況

資料3：【施設内研修】

研修日	内容	対象者
平成26年4月9日	人権研修（利用者権利擁護指針の徹底）	介護・看護・リハ
平成26年6月11日	リスクマネジメント研修	介護・看護・リハ
平成26年7月16日	認知症ケア研修	介護・看護・リハ
平成26年8月13日	身体拘束・虐待防止研修	介護・看護・リハ
平成27年3月29日	認知症ケア研修（バリデーション研修）	介護・看護・リハ

資料4：【外部研修】

研修日	内容	対象者
平成26年4月25日	上級救命講習	介護職員
平成26年5月18日	介助者の腰痛予防	看護師
平成26年7月5日	第22回日本社会福祉士会全国大会	介護職員
平成26年9月4日	第4回みえきた地域栄養ネットワーク研修会	調理士
平成26年11月10日	介護施設等看護実務者研修	看護師
平成26年11月15日	バリデーション研究会	作業療法士
平成26年11月17日	介護施設等看護実務者研修	看護師
平成26年11月19日	介護施設等看護実務者研修	看護師
平成26年12月6日	認知症ケア看護研修	看護師
平成26年12月19日	介護施設等看護実務者研修	看護師
平成27年1月6日	給食施設管理者研修会	栄養士
平成27年1月31日	バリデーション研究会（症例報告）	作業療法士
平成27年2月26日	認知症高齢者の権利擁護と成年後見について	支援相談員

3. 快適な施設環境の維持

インフラストラクチャーチェック・防災非難設備の自主チェックを毎月実施し、施設の老朽部分の保守・修理を行った。

4. 地域との交流

地域交流やボランティア体験・実習を以下のように実施した。

- (1) 敬老祝賀会（9月：家族との交流）
- (2) 運動会（10月：園児・地域住民・老人会との交流）
- (3) 常磐中学校（11月：福祉体験学習）
- (4) 聖十字看護専門学校（1～3月：老年看護学実習）

5. 広報活動

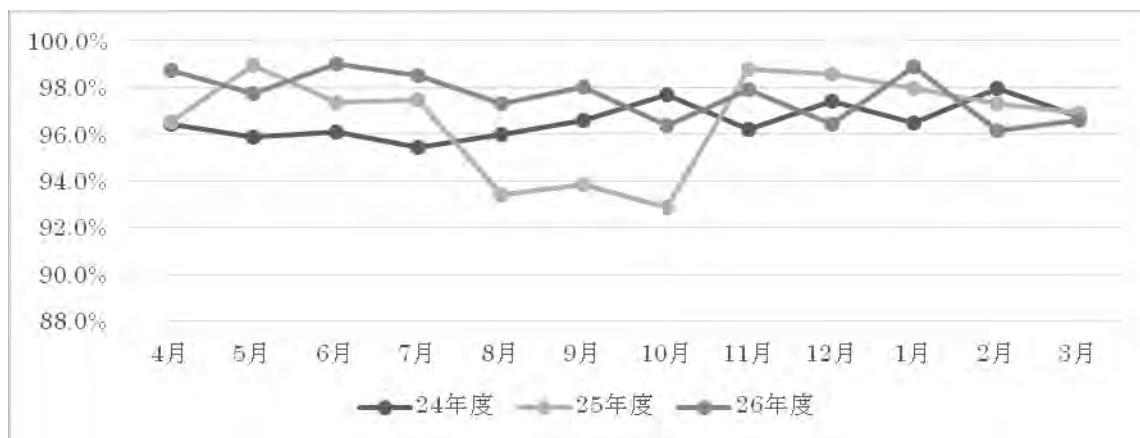
利用者に聖十字ハイツの理解を深めていただけるよう、施設での行事やレクリエーション風景や職員紹介を写真やイラストを取り入れながら機関誌「もみの木」を年3回（5月・9月・1月）に発行した。

6. 施設利用状況

(1) 介護老人保健施設・短期入所療養介護

平成26年度の入居部門（介護老人保健施設・短期入所療養介護）の年間平均稼働率は、97.64%となり、前年度を約1%上回った。

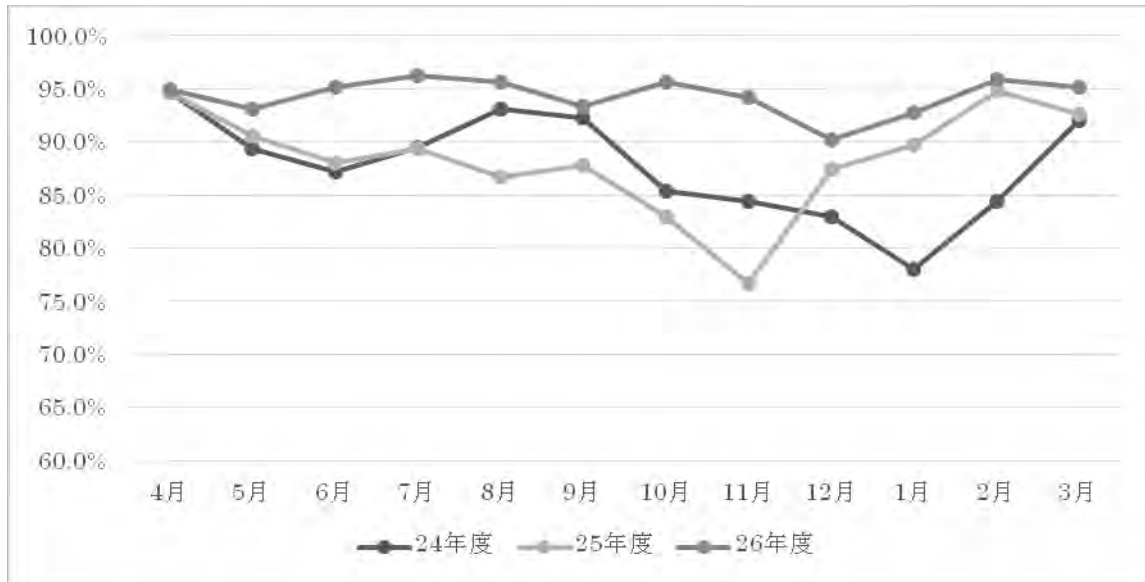
稼働率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
24年度	96.4%	95.9%	96.1%	95.5%	96.0%	96.6%	97.7%	96.2%	97.4%	96.5%	98.0%	96.7%	96.57%
25年度	96.5%	98.9%	97.4%	97.5%	93.4%	93.8%	92.8%	98.8%	98.6%	98.0%	97.3%	96.9%	96.66%
26年度	98.7%	97.7%	99.0%	98.5%	97.3%	98.0%	96.4%	97.9%	96.5%	98.9%	96.2%	96.6%	97.64%



(2) 通所リハビリテーション

平成26年度の通所リハビリテーションの稼働率は、年間平均94.35%となり、前年度より、5.9%上昇した。

稼働率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
24年度	94.7%	89.4%	87.2%	89.5%	93.1%	92.2%	85.4%	84.4%	82.9%	78.1%	84.4%	92.1%	87.78%
25年度	94.6%	90.6%	88.0%	89.4%	86.7%	87.8%	83.0%	76.7%	87.5%	89.7%	94.8%	92.6%	88.44%
26年度	94.9%	93.1%	95.2%	96.3%	95.6%	93.3%	95.6%	94.1%	90.3%	92.8%	95.8%	95.1%	94.35%



平成 26 年度 ケアハウス 白百合ハイッ 事業報告書

I. 施設運営の基本方針

利用者の意思及び人格を尊重し、常にその方の立場に立った、人間性に満ちた必要なサービスを提供することによって、利用者が安心して生き生きと明るく生活できるようにすることを目指した。また、利用者の方々が「白百合ハイッ」に入居したことを満足に思える環境を整えることを心掛け、サービス向上に取り組むこととした。

II. 具体的な事業計画

1. 自立支援に向けた適切なサービスの提供

介護サービスだけでなく利用可能な社会資源を活用して自立した生活を継続できるよう支援を行った。身の回りのことを中心に必要なに応じて介助を行った。今後もご家族や介護サービスで補えない場合は施設対応を継続していく。

2. 定期的な相談会を実施し適切な情報提供を行う

定期的な意見交換会を実施し、生活の中での改善点をご指摘いただき改善につなげることができた。しかし、すべてのご意見を改善することができなかつたため、来年度も引き続き取り組むこととなった。

3. 施設の社会化を推進し、生きがいのある生活の場にしていく

音楽活動を中心とした定例的なボランティアにより、生活に意欲的な発言が多く見受けられ、他行事への参加人数も増加したが、利用者自身のボランティア活動は、わずかに見られる程度であった。外出支援として、美術館、コンサート、買い物、お花見ツアー等を実施し喜んでいただいた。

4. 入居者同士がふれあう機会に趣味活動・レクリエーションの実施

毎週、食堂での「歌おう会」は好評であった。また、喫茶コーナーを活用してコーヒーの提供、ゲーム、創作活動の補助をおこなった。利用者主体の活動としては、囲碁・将棋活動を定期的で開催できるよう場所の提供、参加者を募った。

5. リスクマネジメントの強化

御意見、ご要望の中から即時対応が可能なものと時間を要するものに分け改善に努めた。直ぐに対応できないものに関してはできない理由を説明し、同じご意見やご要望がないように努めた。時間を要するものとして、ハード面の経年劣化により継続的に改善が必要な箇所に関しては今後、優先順位をつけて計画的に取り組んでいく。

6. 職員の資質向上・サービスの向上

業務に必要なスキルアップの為に外部研修へ積極的に参加を行った。また、ケア部

会の参加により他施設の取り組みや情報を共有することができ、より良いサービスの提供に役立てることができた。

7. 待機者を確保し、空室期間を減少する

前年度と比較し、短期間の中に退居者が多数あった。個室の待機者を確保しているものの、直ぐに入居していただける方は現状では少ないため引き続き待機者確保を継続して行う。特に二人部屋へ申し込んでいる方は、将来に備えての入居希望のため、空室期間を続けてしまう結果となった。

8. 介護保険制度等の有効活用

生活の中での困りごとに対して介護保険で対応できる部分については活用していただくよう利用を促し、自立した生活の継続を維持していただいた。

また、介護認定を受けている方、いない方について正しい理解と利用をしていただくよう介護支援専門員との連携に努めた。

Ⅲ. 入居者の生きがい、仲間づくりまた介護予防のための下記の内容を実施した。

1. リハビリ訓練（実施時期：毎週土曜日）

利用者の身体機能の低下を防止することによって、利用者が安心して生き生きと明るく生活できるようにするため、リラックス運動やゴム・竹などを使った「リハビリ訓練」を実施。定期的な体力測定により、リハビリ効果を実感され、参加人数も上期より増加した。

2. 白百合喫茶（実施時期：毎月1回）

利用者間の交流の機会を促進することによって、利用者が安心して生き生きと明るく生活できるようになり、居室の閉じこもりを防ぐ効果もあった。くつろげる空間を創り、体操やゲームを実施して入居者の方々に参加を促した。

生活の質の向上のためにも利用者の方の要望に応じた創作活動や文化活動を多く取り入れて活動を行った。ボランティア来園による演奏会は入居者だけでなく他施設の入居者も参加していただき交流ができた。

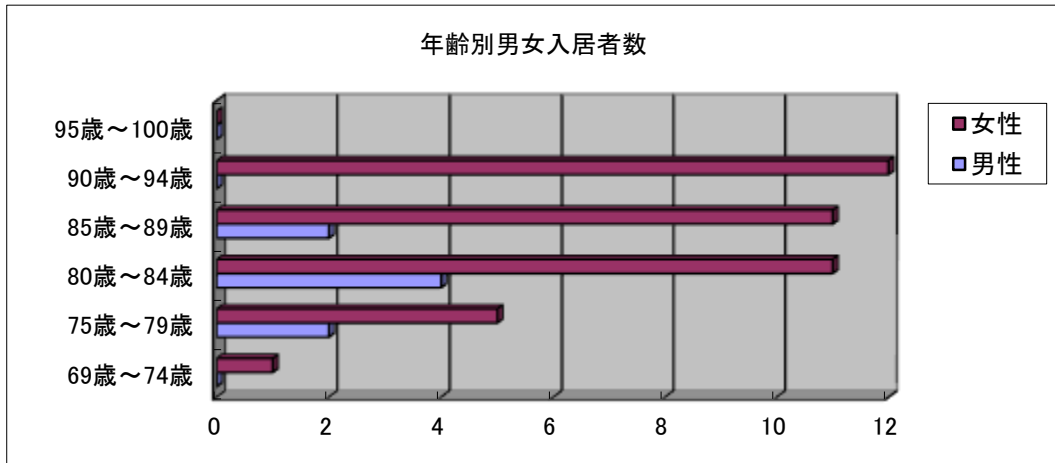
Ⅳ. 資料

年齢別男女

平成 27 年 3 月末時点

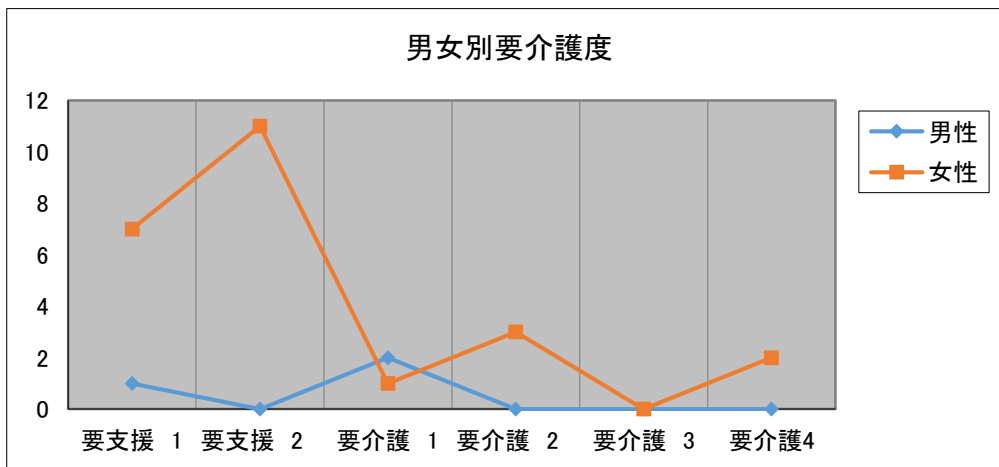
入居者数

	69 歳～ 74 歳	75 歳～ 79 歳	80 歳～ 84 歳	85 歳～ 89 歳	90 歳～ 94 歳	95 歳～ 100 歳	合計
男性	0	2	4	2	0	0	8
女性	1	5	11	11	12	0	40
合計	1	7	15	13	12	0	48



男女別要介護度 平成 27 年 3 月末時点

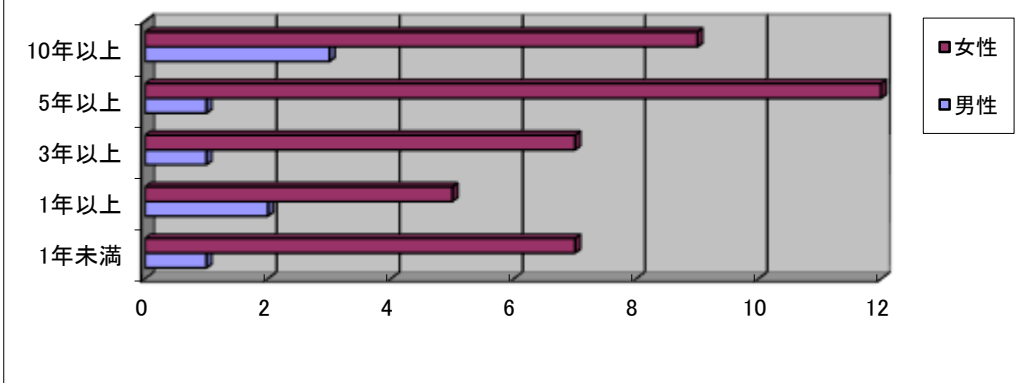
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	合計
男性	1	0	2	0	0	0	3
女性	7	11	1	3	0	2	24
合計	8	11	3	3	0	2	27



入居期間の状況 平成 27 年 3 月末時点

	1 年未満	1 年以上	3 年以上	5 年以上	10 年以上	合計
男性	1	2	1	1	3	8
女性	7	5	7	12	9	40
合計	8	7	8	13	12	48

入居期間の状況



平成 26 年 度
 聖 マ リ ア こ ど も 園
 事 業 報 告 書

I. こども園の基本方針

神様によって与えられた命、一人ひとりの思いを尊重しながら、豊かな人格の基礎をつくるために、恵まれた環境を備え心身ともに健やかな成長を見守り支援し援助することを基本方針とした。

II. こども園事業

小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援を総合的に提供することによって、地域において子どもが健やかに育成される環境を整えるといった地域の幅広いニーズに応えられるようにしてきた。

家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大切に、安心して過ごせる環境と質の高い保育・教育により子どもたちの育ちを保障していくよう努めた。

月	事業内容 (行事)	行 事 目 標 (経験してたこと)	ね ら い (子どもの育ち)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入園式 ・新しいお友だちとあそぼう会 ・内科検診 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園を喜び、明るく元気に登園し、園生活が楽しいと感じた。 ・異年齢の子どもたちと関わり楽しくあそんだ。 ・日常生活に必要な基本的生活習慣を身につけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関わりの中で、相手の立場を理解し思いやりある優しい心が育った。 ・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的生活習慣を身につける意識を持った。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・元気っ子の集い ・航空写真撮影 ・野菜の植付け ・春の遠足 ・自然の中であそぶ ・個人懇談会 ・尿、蟻虫検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児や先生とともにあそぶことの楽しさを知った。 ・身近な植物を知り、親しみ土に触れて野菜の苗付けを楽しんだ。 ・身近な春の自然に触れて戸外であそぶことを楽しんだ。 ・身体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的生活習慣を身につけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団としてのきまりが分かり、友だちとのつながりを広め一緒に活動することを楽しんだ。 ・春の自然に気づき関心を持って見たり触れたり植物の不思議さに気づき豊かな心情が育った。 ・自分の身体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的生活習慣を身につけられた。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・花の日 (聖十字の家訪問) ・温泉水プールあそび 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで身近な人と関わり、信頼感や愛情を持って生活経験をした。 ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人や花に対する愛情を持ち、人権を大切にする心を育った。 ・積極的にあそぶ中で、運動機能が発達した。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観 ・七夕会 ・どろんこあそび 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の人と一緒にこども園で楽しいひと時を過ごした。 ・感じたことや思ったこと、想像したことな 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での生活を保護者に見てもらいながら、楽しく過ごす中にもがんばる気持ちを持った。 ・七夕伝説に関心をもち、様々な体験を通して

	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科検診 ・温泉水プールあそび ・納涼会 (聖十字の家交流会) 	<p>ど色々な方法で自由に表現した。お話の世界を楽しんだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで検診を受け、自分の健康に関心を持ちうがいや歯みがきなど予防に必要な活動を進んで行う意識を持った。 ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 ・家族の人と一緒に行事に参加し、地域の方と触れ合い地域交流や施設交流を楽しんだ。 	<p>豊かな感性を育った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につけた。 ・周りの友だちに対する親しみを深め、集団の中で自己主張し、人の立場を考えながら行動する姿が育った。 ・積極的にあそぶ中で、運動機能の発達が見られた。 ・地域社会の中で安心できる居場所を感じることができた。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉水プールあそび ・どろんこまつり ・お泊り保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 ・泥んこになりながらダイナミックにあそんだ。 ・自主自立に向けて保護者から離れて寝食を経験し、花火や夜のお散歩など夜のこども園を楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心、応力に応じて全身を使って活動することにより身体を動かす楽しさを味わい、安全についての構えを身に付けた。 ・園に泊まった喜びや自信、やり遂げた達成感を味わうことができ、自主自立に向け少し自信がついた。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 ・敬老の日 (聖十字の家訪問) ・年長組社会見学 (町内5歳児とともに東山動物園) 	<ul style="list-style-type: none"> ・火事や地震、不審者対策をなぜ繰り返し行っていくかを聞き、その重要性を感じた。 ・自分たちとの生活との関係に気づき生活経験を広めた。 ・集団行動の大切さを十分味わい、クラスや町内の5歳児と共に社会見学を楽しんだ。 ・いろいろな動物に興味・関心を持つ動物を愛し優しさを養った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に起こった時のことを考えて正しく行動しようとする姿勢が育った。 ・高齢者との関わりの中で信頼感や愛情、優しさを持ち、人権を大切にすることが芽生えた。 ・集団行動の楽しさを十分に味わい、共通の行事に参加し、仲間と協調したりする態度が育った。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・交流運動会 ・親子遠足 ・秋の遠足 ・ハロウィンパーティー (聖十字の家交流会) ・内科検診 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖十字の家の入居者をはじめ地域など自分の生活に深い色々な人と触れ合い自分の感情や意志を表現しながらともに楽しんだ。 ・身近な社会や自然の環境と触れ合う中で発見を楽しんだり考えたりそれを生活に取り入れようとする姿が見られた。 ・身近な人と関わり信頼感や愛情を持って生活する幸せを感じた。 ・進んで検診を受け、自分の健康に関心を持ち健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に運動する中で、運動機能の発達を図るとともに、親や祖父母、地域の方の愛情に気づきそれらの人々を大切にしようとする気持ちが持てた。 ・秋の自然に関心を持ち、豊かな心情を育った。 ・人との関わりの中で信頼感や愛情を持ち、人権を大切にすることを育った。 ・自分の身体や、病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身につけた。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のこどもまつり (収穫感謝祭) ・バルーン体験 ・自然の中であそぶ ・特別保育自由参観 ・ふれあいまつり (4, 5才児出演) 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然に触れ秋の實りに感謝し味わった。 ・幅広い経験することによって想像性と創造性を伸ばし色々な人の働きを受け止め生活経験を広めた。 ・自然との触れ合いの中で発見や感動、驚きながら季節の移り変わりの様子や美しさに気づいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を通して、豊かな感性が育った。 ・身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動する心が育った。 ・体験を通して、大自然の中にいる自分に気付いた。

12	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会 ・クリスマスパーティ <p>(聖十字の家訪問)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの意味を知り集いを楽しんだ。 ・様々な表現活動を通して、想像性と創造性を伸ばした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さに対する感覚を豊かにする心が育った。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新年のご挨拶 (聖十字の家訪問) ・お正月あそび ・もちつき大会 ・給食自由参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始の伝統的な行事に関心を持った。 ・身近な言葉やあそびに親しみ、それに合わせた体の動きを楽しんだ。 ・日本の伝統あそびを親しむ中で文字や数字などに興味を持った。 ・普段の給食風景を保護者の人に見てもらい楽しいひと時を過ごした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で言葉への興味や関心の育ちが見られた。 ・人との関わりの中でいろいろな人たちにお世話になっていることを知った。 ・身の回りに様々な人がいることを知り関わり大切さ、楽しさを味わうことができた。 ・食べ物に興味や関心を持ち、進んで食べようとする気持ちを育てる食育に対する意識を深め、生きる力を養うことができた
2	<ul style="list-style-type: none"> ・節分会 ・歯科検診 ・交通安全指導 ・冬の自然を見て歩く ・保育参観 ・特別保育自由参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・節分や鬼に関する絵本や話を見たり聞いたりし、異年齢で楽しい豆まきに参加した。 ・日常生活に必要な交通安全など、基本的な習慣や態度を養うことができた。 ・早春に向かう自然の変化に気づいた。 ・講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いたり見たり、触れたりして興味・関心を広げた。 ・進んで検診を受け、自分の健康に関心を持った。 ・交通安全に必要な基本的な習慣、態度を身につけ、そのわけを知って行動する姿勢が育った。 ・冬から春への季節の変化に気づき自然の恵みを感じた。 ・何事にも興味を持って取り組み、知識・意欲・態度が育った。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・特別保育自由参観 ・ひなまつり会 ・お別れ会 ・春の自然を探してあそぶ ・個人懇談会 ・終了式 ・卒園式 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げることができた。 ・一緒に過ごしてきた保育者や友だちとの愛情や信頼関係を分かち合った。 ・身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動した。 ・進学、進級への期待を膨らませ、家庭や保育者間の丁寧な連携の中で安心して卒園・進級することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも興味を持って取り組み知識・意欲・態度を育った。 ・一人ひとりを活かした集団を形成しながら人と関わる力が育った。 ・集団生活の楽しさを味わい、仲間と協力する態度を身につけることができた。 ・自信を持って毎日の生活を過ごしながら新しい生活に対する期待感が持てた。

★誕生会・・・毎月第3木曜日（4月、8月は第4木曜日）

7月は七夕会、3月はひなまつり会と一緒にいった。

★身体測定・・・4, 7, 10, 1月 月末月または、火曜日

体重測定・・・毎月末月または、火曜日

頭囲測定・・・7, 1月、視力検査・・・(3歳児以上) 2月

★礼拝・・・毎月第2、4月曜日

★避難訓練・・・毎月末月曜日

★その他・・・年長組は毎月調理実習及び、講師による特別保育として、英語、リトミック、お茶会、陶芸などを体験した。

年中組は調理実習を7回程度行い、特別保育として10月よりリトミックを体験した。

Ⅲ. 病後児保育事業

1. 目的

病気の回復期または怪我の回復期と判断された児童・幼児（1才～小学3年生まで）を保護者が何らかの理由（勤務、疾病、出産、家族の介護など）で保育をすることが困難な場合、保護者に代わり病後児保育室で保育する。

利用日： 月曜日～金曜日（土、日、祭日及び12月29日～1日3日を除く）
開園時間：午前8時30分～午後5時30分（保護者の希望により変更有）
利用期間；1回の利用につき7日間まで
利用料金：一人につき1日1,000円（給食費別¥300徴収）

2. 病後児保育事業委託契約

平成26年4月に、菰野町子ども家庭課「病後児保育事業」担当の高木氏と聖マリアこども園の小山の両者にて「病後児保育事業委託契約書」を交わした。

*平成26年度

登録者数

6月	1名	12月	1名
7月	2名	1月	1名
8月	1名	2月	2名
11月	5名	3月	6名
合 計			19名

利用者数

4月	1名	10月	2名
5月	0名	11月	1名
6月	2名	12月	1名
7月	4名	1月	0名
8月	1名	2月	0名
9月	1名	3月	0名
合 計			13名

*病後児保育室のことも、利用者の方の口コミや幼稚園や保育園、菰野町役場、コミュニティセンターへのポスターやホームページの更新などにより利用者も少しずつ増えてきた。

*広域（聖十字看護学校の学生や聖十字の家の職員）の方も利用したいというニーズがあるので今後菰野町と確認を取り、受け入れていく。

*利用したいときに直ぐに利用可能なように登録を予め済ませておいてもらえるように入園時に配布するお手紙の中に入れ込むようにする。

Ⅳ. 子育て支援事業

1. 目的

子育て相談や親子の集いの場を提供し、保護者への支援を通して子育て力の向上を支援する。

2. 実施内容

毎週火曜日 10:00～11:30 子育て支援保育（あそびプログラム作成）
 月～金曜日 午前中 園庭開放
 毎月最終土曜日 9:30～11:30 親子クッキング
 夏季温泉水あそび 10:00～11:00 子育て支援保育
 （7月初旬～8月中旬お盆前まで土日除く平日）

3. 活動内容

4月～3月 毎週火曜日 あそびプログラム
 毎月最終火曜日：誕生会（誕生児は手形をとり手作りカード渡す）

<あそびプログラム内容>

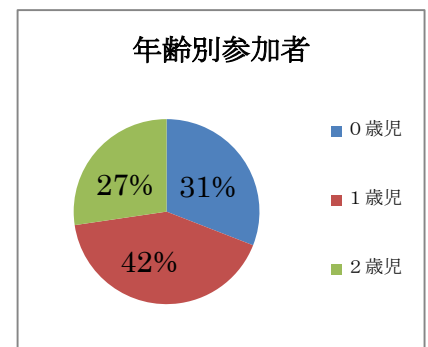
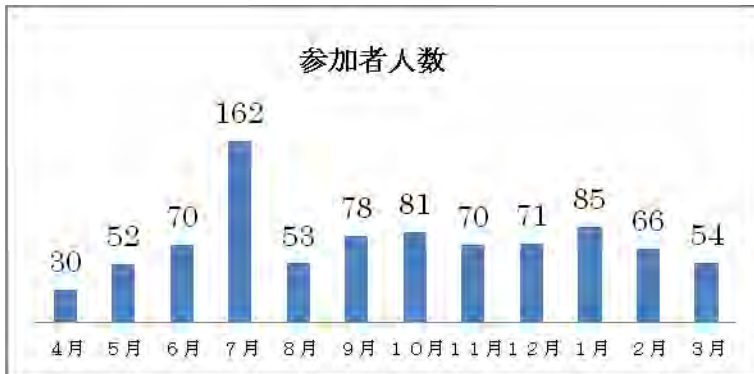
玩具制作、身体測定、手・触れ合いあそび、体あそび、在園児とあそぼう、誕生会、園行事参加

*こいのぼりモビール	*七夕紙皿メリー	*プールのおもちゃ(ガチャぽんでガラガラ)
*双眼鏡	*まつぼっくりツリー	
*鬼のお面	*ひなまつり	

◎毎月最終土曜日：親子クッキング（5月～3月・12月・3月は除く）

*今年度より給食で人気のおやつメニューも取り入れ、旬を感じ、簡単に作れるおやつ作りを取り入れた。

*人参ケーキ	*チーズポテト	*パン(かぼちゃ・コーン)	*野菜クラッカー	*五平もち
*かぼちゃパイ	*さつまいも蒸しパン	*バナナスコーン	*ひなまつりクッキー	



◎今年度も「在園児とあそぼう会」を取り入れ、0～5歳児までの各クラスと年間を通して交流し、異年齢とふれあう事を目的としたあそびの場を設けた。

◎行事参加：夏祭り・盆踊り大会(7月)、交流運動会(10月)参加。

◎年2回親子リトミック開催。(講師 廣瀬ふさえ先生) (10月・12月)

◎今年度よりベビーマッサージ、ベビーマッサージを取り入れ各1回ずつ実施した。

◎支援室保育だけでなく、園舎周辺への園外保育を取り入れ実施した。

◎今年度は体あそびも多く取り入れ、親子一緒に体操など体を動かす機会を設けた。

平成 26 年度
聖十字保々在宅介護サービスセンター
老人デイサービス事業
事業報告書

I. 事業内容

1. 通所介護事業（定員 30名）
2. 介護予防通所介護事業

II. 施設サービスの目的

地域で生活される要支援・要介護の高齢者の方々に対して通所介護サービスを提供し、ご利用者の社会的孤立感の解消および生活機能の維持・向上を図るとともに、ご家庭で介護される方の負担軽減を図ることを目的として、利用される皆様にご満足いただけるサービスの提供に努めた。

III. 通所介護サービス

1. サービス内容

送迎 健康管理 入浴 排泄 食事 おやつ リハビリ体操
レクリエーション 理髪（月1回）

2. レクリエーション活動

毎日実施するレクリエーションでは、新規のメニューを増やすとともに、レギュラーメニューを毎日アレンジして計画的に実施した。

- (1) 脳トレ ・カップカーリング ・フリスビー ・ホッケー ・射的 ・箱倒し
- (2) ダーツ ・サイコロゲーム ・タオル投げ ・風船投げ ・缶けり ・吹き矢
- (3) 〆（円）取り ・お手玉つかみ ・玉落とし

3. ボランティア

下記の内容のボランティアの受け入れを行い、利用者サービスの向上にご協力いただいた。

- (1) 歌と体操 (リズムメイト：四日市ボランティア)
- (2) 交流 (シルバー人材センター 7名)
- (3) 大正琴 (四日市シルバー人材センター)
- (4) ハンドケア (山下久美子様)
- (5) 清掃作業 (保々中学校3年生)
- (6) 民話語り (大羽根園老人クラブ松寿会 民話部)

(7) 楽器演奏 (ハイビスカス)

(8) 千羽鶴贈呈 (保々地区社会福祉協議会・保々小学校3年生)

4. 年間行事

4月 「花見」	10月 「焼き芋」「神社参拝」
5月 「ドライブ」	11月 「ホットケーキ」
6月 「カステラ作り」	12月 「クリスマス会」
7月 「七夕祭り」「ドライブ」	1月 「書き初め」
8月 「夏祭り (かき氷)」	2月 「節分」 豆まき
9月 「たこ焼き作り」	3月 「たこ焼き会」

5. 食事・おやつを提供

栄養摂取に配慮しながら、季節の食材を取り入れ、おいしい食事の提供に努めた。また、適宜「手作りおやつ」を提供し、ご利用者の皆様に喜んでいただいた。

さらに市販の菓子を購入・日替わりで提供した。

6. サービス向上のための取り組み

毎月、デイサービス会議（業務改善会議）を実施した。

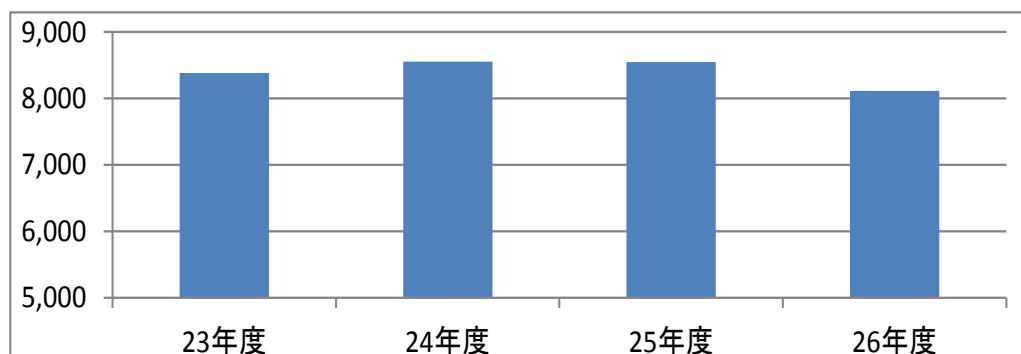
IV. 通所介護利用状況

(1) 年間延利用者数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	527	556	520	553	535	555	563	502	524	492	509	516	6,352
予防通所介護	149	146	145	164	154	145	165	144	138	139	123	150	1,762
計	676	702	665	717	689	700	728	646	662	631	632	666	8,114

年間延利用者数 推移



(2) 年間実利用者数

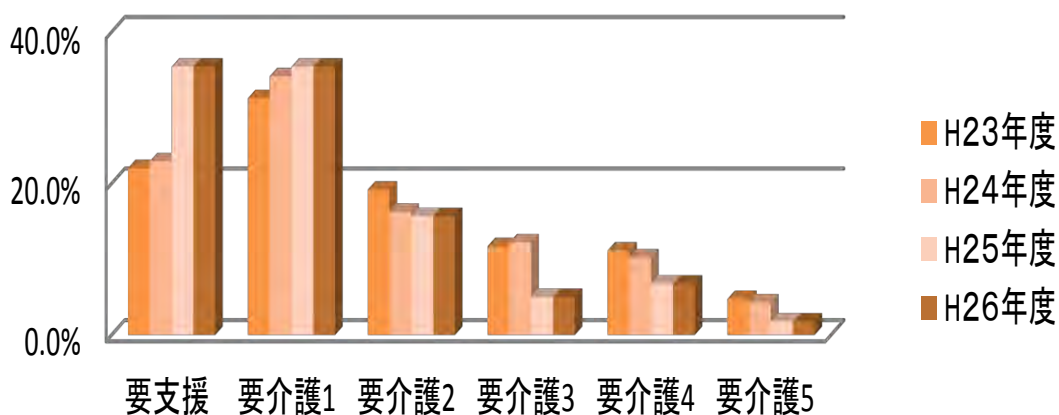
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	41	41	40	40	40	42	41	38	39	38	39	39	478
予防通所介護	20	19	22	25	24	21	22	23	22	21	21	22	262
計	61	60	62	65	64	63	63	61	61	59	60	61	740

(3) 平成26年度・年間介護度（構成割合）

介護度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
実利用者内訳	262	262	116	37	50	13	740
構成割合	35.4%	35.4%	15.7%	5.0%	6.8%	1.8%	100%

年度構成比較



V. 職員研修の状況

職員の資質向上を図るため、各種の職員研修に参加した。

8/17 平成26年度 三重県デイサービスセンター協議会北勢地区勉強会
「防災リスクマネジメント研修会」

3/23 人権研修「差別と忌避難」（人権プラザ小牧 伊藤館長講義）

以上

平成 26 年度
 聖十字保々在宅介護サービスセンター
 在宅介護支援センター事業
 事業報告書

I. 事業内容

1. 在宅介護相談事業 (四日市市委託事業)
2. 訪問給食事業 (同上)

II. 事業の目的

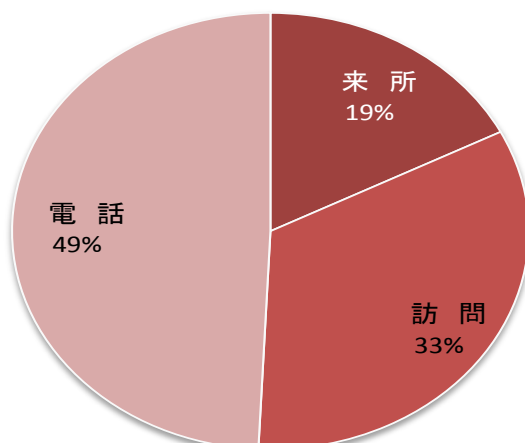
四日市市の委託を受け、地域の福祉相談窓口として、訪問・電話による相談業務を実施した。また、地域の高齢者の実態把握に努めるとともに、地域の1人暮らし高齢者の方々への見守りをするため訪問給食を実施した。

III. 相談業務の実施状況

1. 高齢者関係

	本人	家族	その他	合計
来所	16件	63件	3件	82件
訪問	91件	64件	1件	156件
電話	28件	131件	72件	231件
合計	135件	258件	76件	469件

相談内訳



2. 障害関係

なし

IV. 介護予防教室実施状況

介護予防教室

年間 8回開催

(9/23 市場町・12/9 西村上条・10/10 西村町・11/10 小牧北・11/18
小牧南・12/10 西村新田・11/17 小牧西)

V. 地域との連携

1. 地区民生委員連絡会議に出席

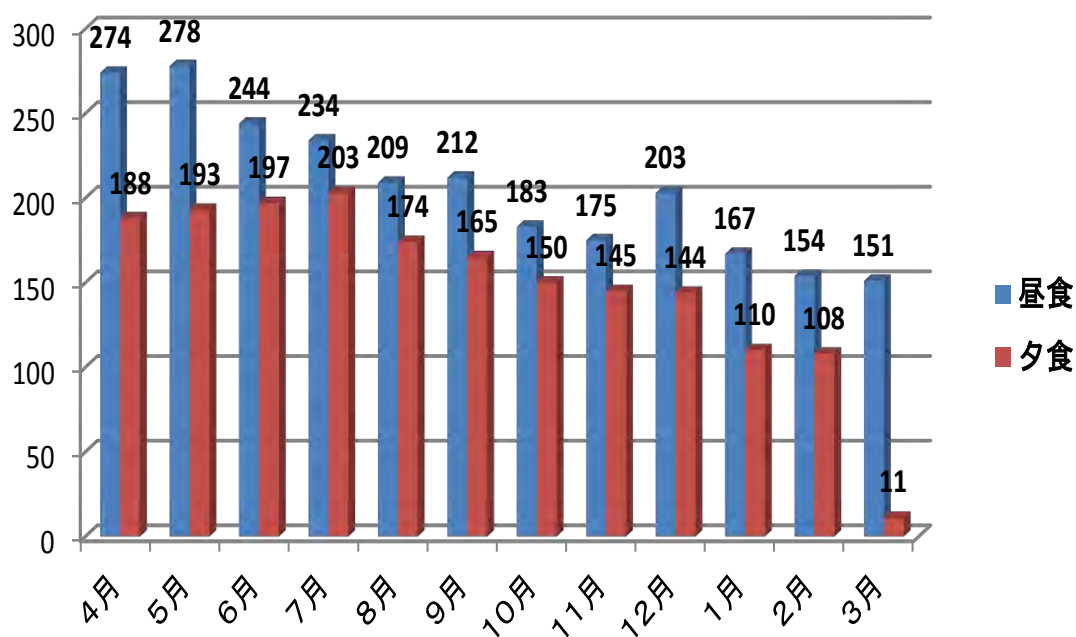
(1) 年間 12回出席

2. 「人権プラザ小牧」との情報交換

(1) 年間 4回訪問

VI. 訪問給食実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昼食	274	278	244	234	209	212	183	175	203	167	154	151	2,484
夕食	188	193	197	203	174	165	150	145	144	110	108	11	1,788
計	462	471	441	437	383	377	333	320	347	277	262	162	4,272



VII. 在宅介護支援センター運営会議の開催

1. 実施日 平成 26 年 7 月 7 日
2. 出席者 四日市市役所介護高齢福祉課
四日市市社会福祉協議会
地区社協会長
地区民生委員会会長 及び 副会長
地区老人会会長
連合自治会会長
人権プラザ小牧
市民センター館長
四日市市北地域包括センター
当施設管理者・担当者

VIII. 地域行事への参加

1. 人権プラザ小牧運営協議会 (年間 3 回) 6/9・9/19・3/18
2. 敬老慰安会 9/15
3. 小牧地区文化祭 10/25
4. 80 歳以上の高齢者の皆さんとひとり暮らしの皆さんの集い 10/27
5. 保々地区文化祭 11/3

※ 平成 26 年度はつらつ健康塾！

目的:地域の概ね 65 歳以上の方を対象に介護予防のための健康知識を学んでいただく。
平成 25 年度 10 月より四日市市健康づくり課からの委託事業となり地域包括支援センターと在宅介護支援センターで協働して開催することとなった。平成 26 年度から地区展開をしていくこととなり、地区市民センターでは 4 回、地区の公会所をお借りして実施した回数が 5 回、計 9 回実施した。

1. 四日市市保々地区市民センターでの実施

- 4/22 「介護予防」参加者 9 名
- 5/27 「健康な体づくり」参加者 7 名
- 6/24 「腰痛予防」参加者 13 名
- 3/24 「認知症と栄養」参加者 5 名

2. 各地区公会所での実施

- 7/29 やすらぎ荘「口の健康」9 名
- 9/30 小牧町南公会所「健康な食生活」参加者 18 名
- 10/28 中野町公会所「ウォーキング」3 名
- 11/25 高見台公会所「認知症予防」16 名

12/16 小牧町北公会所「転倒予防」13名

平成26年度 はつらつ健康塾 参加者 合計98名

※ 認知症サポーター養成講座 開催

6月6日 保々地区社会福祉協議会・民生委員・福祉協力員 52名
(保々地区市民センター2階会議室)

※ 研修等実施状況

8月17日 平成26年度三重県デイサービス協議会 北勢地区勉強会
「防災リスクマネジメント研修会」
講師：福祉マネジメント研究所 鳥野猛氏

10月3日 四日市北認知症訪問支援説明会
「地域包括ケアと認知症対策」
講師：三重大学准教授 大西丈二氏

12月18日 平成26年度第3回小地域事例検討会

2月16日 平成26年度三重県地域包括・在介職員研修会
「地域包括ケア推進に求められる地域包括及び在宅介護支援セン
ターの役割及び機能について」

2月20日 平成26年度三重県地域包括・在介職員研修会
「地域ケア会議の理解とその展開」
講師：堀尾 栄氏

3月23日 平成26年度人権研修「差別と忌避」
講師：人権プラザ小牧 館長：伊藤泰朗氏

3月25日 内部研修：平成25年度「人権研修」（うわさと差別）
講師：人権プラザ小牧 伊藤館長

以 上

平成 26 年度
 聖 十 字 四 日 市 老 人 福 祉 施 設
 地域密着型 介護老人福祉施設 入居者生活介護
 事 業 報 告 書

I. 事業内容

特別養護老人ホーム（地域密着型介護老人福祉施設） 定員 29 名

II. 事業内容全般

平成 26 年 11 月に開設した、鈴鹿聖十字会で初めてのユニット型特別養護老人ホームです。

地域に密着した小規模の施設で、全室個室、トイレ、洗面台を完備し、ご自宅での生活同様にくつろぎのプライベート空間となるよう配慮いたします。

ユニットは、9 名～10 名ごとに分かれており、スタッフも担当制として、少人数で家庭的な雰囲気になじみのある環境の下で、ご要望や心身の状況に応じたサービスを提供できるよう、職員一同、日々研鑽を重ねております。

1. 入居状況（下記人数は各月末日時点の数字）

性 別	11月	12月	1月	2月	3月
男性	4名	5名	7名	8名	8名
女性	14名	18名	20名	21名	21名
合計	18名	23名	27名	29名	29名

2. 年齢分布

年 代	11月	12月	1月	2月	3月
60歳代	2名	—	—	—	—
70歳代	6名	8名	9名	9名	9名
80歳代	7名	11名	14名	16名	16名
90歳以上	3名	4名	4名	4名	4名
合計	18名	23名	27名	29名	29名

3. 要介護度分布

要介護度	11月	12月	1月	2月	3月
要介護 1	—	—	2名	2名	2名
要介護 2	1名	1名	3名	4名	4名
要介護 3	6名	11名	11名	11名	11名
要介護 4	7名	6名	6名	6名	6名
要介護 5	4名	5名	5名	6名	9名
合計	18名	23名	27名	29名	29名

4. 居住地区別分布（平成27年3月末日現在）

地区名	人数
保々地区	15名
海蔵地区	3名
県地区	2名
常盤地区	1名
下野地区	3名
桜地区	3名
三重地区	2名

5. 月別入居者数

（平成26年度）

		11	12	1	2	3	合計
月初人数		5	18	23	28	29	103
入居		18	6	5	1	0	30
退居	死亡	0	0	0	0	0	0
	入院	2	0	0	0	2	4
	他施設へ	0	0	1	0	0	0

6. サービスの延べ利用人数（人） 入所

（平成26年度）稼働率

		11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員 (29床×日数)		870	899	899	841	870	4,379
延べ 利用 人数	要支援	0	0	0	0	0	0
	1	0	0	50	56	62	168
	2	10	31	86	112	124	363
	3	147	285	315	308	341	1,396
	4	133	183	186	168	186	1,042
	5	105	155	155	160	186	761
	合計	395	654	792	804	899	3,544
稼働率%		45.4%	72.8%	88.1%	99.0%	98.7%	80.9%

7. 職員の状況

(1) 職員配置状況 (平成27年3月末日現在)

単位：人

職種	常勤専従	常勤兼務	非常勤専従	非常勤兼務	計	常勤換算数計
管理者		1			1	1.0
生活相談員	1				1	1.0
介護職員	12	1	3		16	14.2
看護職員	1	1		1	3	2.6
医師			1		1	0.1
栄養士	1				1	1.0
調理員		3		5	8	5.2
事務員	2		1		3	2.5
合計	17	7	4	5	34	27.6

※管理者の「常勤兼務」は、併設デイサービス、居宅介護支援事業との兼務。

※介護職員の「常勤兼務」は、介護支援専門員との兼務。

※看護職員の「常勤兼務」は、機能訓練指導員との兼務。

※看護職員、調理員の「非常勤兼務」は、併設デイサービスとの兼務。

(2) 保有資格の状況※介護職員を除く (平成27年3月31日現在) 単位：人

職種	常勤換算数	関連資格名	保有人数 (常勤換算)
管理者	1.0	社会福祉士	1.0
生活相談員	1.0	社会福祉士	1.0
看護職員	2.6	准看護師	2.6
栄養士	1.0	管理栄養士	1.0

(3) 介護職員の状況 (平成27年3月31日現在)

単位：人

経験年数	介護福祉士取得者	介護福祉士未取得者	人数計
15年以上	3 (3.0)	0 (0.0)	3
10～14年	6 (6.0)	0 (0.0)	6
5～9年	0 (0.0)	0 (0.0)	0
1～4年	1 (1.0)	3 (1.7)	4
0～1年	0 (0.0)	3 (2.5)	3
計	10 (10.0)	6 (4.2)	16

※ () 内は常勤換算数。

※「経験年数」には、他法人施設・事業所での経験を含む。

III. 施設活動内容の報告

1. 具体的な事業実施内容

平成26年

10月 完成引渡し、備品の搬入、落成式、三重県・四日市市の実地検査

- 11月1日 開所（入居者受け入れ開始）
- 11月15日 （落成式以後、地域の方の施設見学に随時対応）
施設見学会 午前：保々地区民生委員様 13名
午後：近隣居宅サービス事業所様 10名
- 12月1日 施設で初めての理髪利用日を設定。
理髪店にご協力いただき、さっぱりしたと喜ばれていました。
- 12月中旬より インフルエンザ等の感染症対策のため、職員はもとより、ご面会者様など外来の方にマスク着用や手指消毒をお願いしております。
なお、昨年末より現在に至るまで、感染症の流行はありませんでした。
- 12月24日 クリスマスケーキを入居者の皆様に食べていただきました。
職員がサンタクロースの衣装を着てクリスマスの雰囲気を楽しんでいただきました。

（行事）

平成27年

- 1月1日 元日のおせち料理を楽しんでいただきました。
- 1月23日 2階 地域交流スペースにて喫茶サービス（田園珈琲店）を行いました。
- 2月3日 節分の豆まきを行いました。
- 2月23日 2階 地域交流スペースにて喫茶サービス（田園珈琲店）を行いました。
- 3月23日 田園珈琲店（喫茶）

運営推進会議の開催

平成27年3月13日

ご家族、地域の民生委員、市役所介護高齢福祉課、北地域包括支援センターの方々においでいただき、現況報告、活動内容の報告を行いました。

1 サービスの延べ利用人数（人） 短期入所 （平成26年度）

		11	12	1	2	3	合計
定員（10床×日数）		300	310	310	290	310	1530
延べ 利用 人数	要支援	0	0	0	2	0	2
	1	0	7	14	7	7	35
	2	1	2	3	4	6	16
	3	0	7	2	2	23	34
	4	9	12	17	18	35	91
	5	0	0	0	0	0	0
	合計	10	28	36	33	71	178
稼働率：%		3.3%	9.0%	11.6%	11.4%	22.9%	11.6%

平成26年度 三重聖十字病院 事業報告書

I. 事業内容

疼痛緩和医療事業 緩和ケア病棟での入院医療 25床

外来治療事業 精神科、内科、心療内科、神経科、神経内科、緩和ケア外来

II. 平成26年度の重点事業内容

1. チームワーク医療の充実を図り医療の質向上を目指す

北勢地区唯一の緩和ケア病院として、当法人の理念および基本的緩和ケア指針を全職員に徹底し、チームワーク医療を根幹とする緩和ケア理念の定着に務めた。

2. リスク管理の強化を図る

医療安全管理委員会を強化し誤薬、転倒転落などの事故防止・再発防止に努めた。また、施設管理、防災対策などあらゆるリスク管理を強化すると共にコンプライアンスの徹底を図った。

3. 緩和ケア外来および栄養管理の充実を図る

緩和ケア外来患者延数は432名（前年510名）と78名の減であった。また、栄養管理については、各部門の協力により安定したお食事を提供することができた。

4. 職員のレベルアップ

医師・看護師・MSW・栄養士・事務員など種々の職種が参加するケースカンファレンスを開催、また、緩和ケア医療に有益な外部研修にも積極的に参加、職員のレベルアップを図った。

5. 医療報酬制度に即した医療体制の確立を図る

大幅な診療報酬の改定による制度の変化に対して、常に情報を収集し、柔軟かつ敏感に対応できるよう努めた。

6. 医療・看護体制の整備

常勤医師1名及び新たな非常勤医師により常勤換算では4.98名となった。常勤看護師については21名を確保、非常勤を含めて常勤換算23.89名となり体制の充実を図った。

7. 環境及び施設の整備を進める

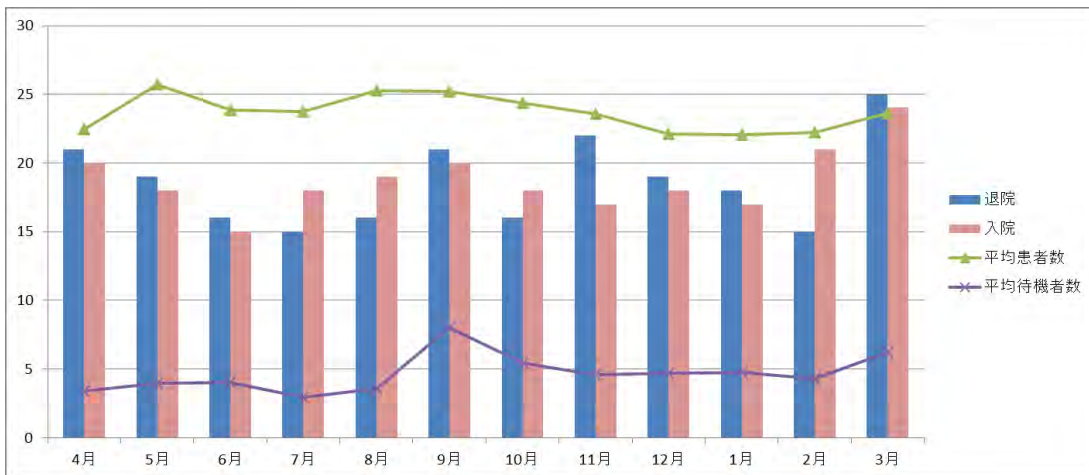
開院以来 10 年目を迎え、医療機器及び設備用機器の整備に努めた。

また、外から見た方たちが見やすいように、正面入り口を含め、駐車場入り口等の看板を新しいものにした。

8. 経営の安定化を図る

開院以来の入院患者数は 1, 796 名となった。26 年度の一日当たり平均入院患者数は 23.7 名。

平成26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
退院	21	19	16	15	16	21	16	22	19	18	15	25		223
入院	20	18	15	18	19	20	18	17	18	17	21	24		225
平均患者数	22.47	25.74	23.87	23.74	25.29	25.2	24.39	23.6	22.13	22.06	22.25	23.65	23.7	
平均待機者数	3.43	3.97	4	2.94	3.58	8	5.45	4.6	4.7	4.77	4.28	6.23	4.66	
在宅退院	2	0	1	1	0	2	0	1	0	0	1	0		8
外来から入院	5	4	3	2	6	6	6	4	5	1	3	5		50
延べ入院	674	798	716	736	784	756	756	708	686	684	623	733		8654



9. 広報活動の強化及びボランティアなどの体制整備を進める

登録ボランティア 49 名。ボランティアの積極的な参加の推進を行った。

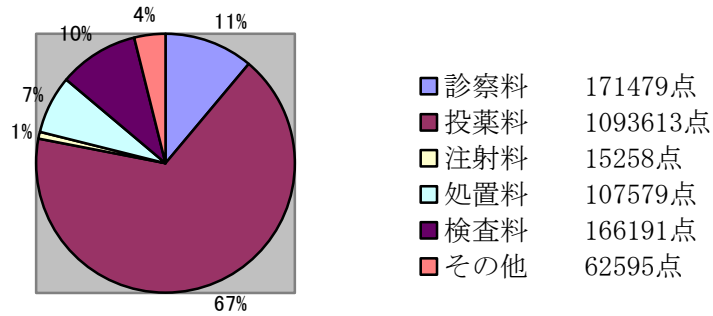
各種行事等の内容としては、月 1 回の家族会、年 2 回の遺族会、利用者とのティータイムなども定着、季節ごとのイベント(クリスマス会など)を実施した。

以 上

平成26年度 菰野聖十字の家診療所 事業報告書

I. 日常診療

ケアハウス、入居者、職員の診療。



平成27年1月より院外処方開始

	1月	2月	3月	合計	月平均
特養	51	48	55	154	51
障害	38	42	30	110	37
白百合	33	28	23	84	28
職員	0	7	7	14	5

(臨時処方箋枚数)

II. インフルエンザ予防接種の実施

特 養	84名
障 害	60名
白百合	35名
デイサービス	1名
職 員	184名
合 計	364名

III. 肺炎球菌予防接種の実施

新入居者など希望者のみに行った。

平成 26 年度
聖十字保々在宅介護サービスセンター
居宅介護支援事業
事業報告書

I. 事業内容

1. 居宅介護支援事業

II. 事業の目的

ご利用者が、その方らしくご自宅で過ごせるために、ご本人・ご家族と相談しながら、毎月1回の訪問・モニタリング・アセスメントの実施を行い、ご本人の状況に合わせた、望まれる最良のサービスの構築・展開を図った。

また、ご本人、ご家族からの依頼により要介護認定の申請代行をおこなうとともに、ご本人、ご家族共にご満足いただけるケアプランの作成を行った。

他の事業者との連携を緊密に図るため、サービス担当者会議を行った。

III. 研修実施状況

1. 四日市市介護保険サービス事業者連絡会居宅介護支援部会（1名出席）

4月22日・6月24日・8月22日・10月20日・12月19日・2月20日

2. 10月13日 北勢北認知症訪問支援説明会 「地域包括ケアと認知症対策」

講師：三重大学准教授 大西丈二氏

12月8日 平成26年度第3回小地域事例検討会

平成27年2月18日 第1回地域意見交換会「退院支援の問題」

平成27年3月23日 平成26年度人権研修「差別と忌避」

講師：人権プラザ小牧 館長 伊藤泰朗氏

IV. 年間介護認定代行申請者数 (新規、更新、変更)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男性	3	3	4	2	2	2
女性	3	4	3	5	9	2
計	6	7	7	7	11	4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
男性	4	2	1	4	3	2	32
女性	8	3	2	3	2	7	51
計	12	5	3	7	5	9	83

V. 居宅サービス計画 (ケアプラン) 実績

新規利用者の受入れを積極的に行った。年間延べ利用者数は 635 人となった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男性	20	18	20	19	18	18
女性	34	39	38	38	36	38
計	54	57	58	57	54	56

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
男性	17	18	16	17	18	18	217
女性	37	34	32	31	30	31	418
計	54	52	48	48	48	49	635

